

GS第18話『神の造物主』情報まとめ

注意事項

グランドシナリオ内では**参加者多数の為に宣言を見落とすことがあります。**

宣言する際には文字色の変更をお願いします。

また、宣言やNPCへの話しかけ以外での文字色変更はおやめください。

宣言が適用されていないと思った場合は、再度宣言をお願いします。

なお、「>GM」がついて居ない宣言は宣言とみなしません。

また、宣言した場合は後から取り消せないことがあります。

依頼書

依頼人：**テンプルストリート長兼双子神殿教皇エル・ファリス五世**

推奨レベル：7以上(三次職6以上、転生職5以上)、上限無し

報酬：一人100000セレン(参加報酬)

舞台：**剣王国南西部、大穀倉地帯ショコラッテ**

必須職業：プリースト、ダークプリースト、シーフ、レンジャー、信仰持ちのクックマスター、
スペルエンペラー(マナエンプレス)

必須スキル：**アンチ・マナ**

概要：

フラクナス中央部に存在する暗黒神殿ヴィヨンドが攻略され、光の軍勢、闇の軍勢が正面衝突してから一ヶ月が経過した。

光の王エル・ファリス二世と、闇の王サタニ・ファラリス十六世の戦いはファリスの勝利に終わり、闇の軍勢は散り散りに逃げ去ったはずであったが、最近突如出現した暗黒神殿の勢力によって、フラクナス内が侵食されている。

天使狩りとも呼ばれる集団によって、光の奇跡で呼び出された天使たちは次々に墮落し、墮天使と呼ばれる存在として各地で猛威を振るっている。

現在大戦争の直後故、光の勢力には、再度闇の勢力の領域へ大進行を行う余裕はない。

光の勢力は勇者の到来を期待し、各地へ我こそはと思う人々に呼び掛けている。

突如現れた暗黒神と暗黒神殿の調査を行い、これを討伐せよ。

達成目標：**暗黒神殿パティシエルの討伐**

努力目標：**暗黒神殿パティシエル誕生の経緯、また教祖、教祖回りの枢機卿の素性調査。**

○特記事項

1. 敵軍は天使特攻あり。天使キャラは洗脳、寝がえりの可能性。
2. **ダークヴィショップのヘロディア**の目撃情報あり
3. 闇の勢力相手の聞き込み、及び潜入調査の必要がある。
4. 潜入調査には、**信仰心**(できればダークプリースト)を持つクックマスターが必要。

ホオヅキで準備

剣王国では**ダークエルフ、ハーフダークエルフ、シャドウ、ヴァンピール、魔界貴族、アンデッド、犯罪者**は入国できない。
サッカバスの場合は角や翼や尻尾を出すとアウトになる。

上記に当てはまるキャラクターは活動するために変装の必要がある。

魔術【トランスフォーム】で姿を変えることで変装を免除可能。

疑われるようなことをせず目立たなければ**コモンマジック【バフォーム・アザー】**である程度はごまかすことが可能。

変装の目標値は王都アパパカルガに入る場合は25、それ以外の地域では20が必要となる。

盗賊ギルドに変装を依頼すると、アパパカルガに入るための変装は5000セレン、それ以外の地域用の変装なら2000セレンが必要となる。

変装は、水浴びをしたり身体を洗ったり浸水したりすると効果がなくなる。

盗賊ギルドに変装を依頼した場合は再度変装するためのファンデーションを5回分だけもらえる。

ディルはエリザベートに挨拶するために探したが、ティガール本国に戻っているようで不在だった。

ついで、キミア元帥、ファブニール団長、ラブフォーン、サフラのうちホオヅキにいる人には出発の挨拶をした。

ヘラはリリーナに出発の挨拶をしたが、リリーナは天使どうこうで騒ぎが起こっているのを噂で知っている程度だった。

依頼書には依頼者である教皇の名前が書いてあるので、アパパカルガ北区にある**テンプルストリート**に行き依頼書を示せば依頼者への面会は可能そう。

現在、**王都アパパカルガの港は封鎖が解除されている**ので、タキ・アスカラから連絡船で4日で移動が可能。

また、**タキ・アスカラから近隣の港に移動して直接ショコラッテに移動することも可能だが、一行にそうしたいメンバーがいなかった**ので、全員で連絡船を使用してアパパカルガに行くことになった。

アパパカルガ

連絡船でアパパカルガに入港。検問があったが大きなトラブルなく通過ができた。

船着場からバザールを抜けてテンプルストリートの双子神殿へ移動。ヘラが見た印象では街の様子は戦争前と変わりがない。

途中で**戦士や魔術師や僧侶**といった物々しい連中とすれ違う。みんな見た目でそれと分かる姿をしている。

一見しただけでは、よく分からないホオヅキの冒険者たちは胡散臭そうな目で見られる。

双子神殿まで来るとアコライトたちが往来している。

近づいてきたアコライトに教皇からの依頼を受けに来たと依頼書を見せて告げるとより上位の僧侶に取り次がれた。

アコライトに替わって**出てきたのは双子神殿の本殿を任されている枢機卿ゼラーダ**。お供に数人の高位司祭の男女を従えている。

依頼者である教皇は現在王城にいるため、一緒に馬車で王城に移動することとなった。

神殿から王城までは徒歩十分ほどだが、**専用の馬車を使用することで一番簡単な手続きで入城することができる**。

アパパカルガ地図



王城

現国王グリム・フォン・フラクナ十四世の構える居城。

ゴブリン帝国が仕掛けた反乱（準GS17.1話『武器横流し』と思われる）や、闇の勢力との覇権争いなど、戦争が絶えなかったが、結局この王城まで戦火が及ぶことはなく、堅牢な王城は今日も健在。

ゼラーダが先頭に立って王城の中を歩くが、**城の中を歩く一行を見る騎士達の目は穏やかなものではない。明らかに胡散臭いものを見るような、アウェーな雰囲気を感じる。**（自分たちを差し置いて冒険者に遠征の任務が下ることに不満があると後で分かる）

しばらく進むと壮年の男性ガルガノスが文官たちと話し、巻物を広げているところに行きつく。ゼラーダはガルガノスに話しかけ王と教皇への取次ぎを頼む。

ガルガノスはゼラーダに聖典の解釈について教えてもらったことにお礼を言っている。

ガルガノスは代々公爵の家柄で王城の一切を取り仕切っているようだ。非常に身なりが良く見ただけで大臣クラスと分かるくらいだ。

その場で待っている間に周囲を見回すと、立派な調度品が並び、豪華な鎧に身を包んだ近衛騎士が警備に立っているのがみえる。

取り次ぎから戻ってきたガルガノスから教皇は国王に呼ばれて話をしていると告げられ、一行は教皇と国王に会いに行くことになった。

拝謁

大きな空間に豪華で巧みな彫刻が刻まれた壁に包まれた赤いじゅうたんの敷かれている部屋。テーブルが置かれ、近衛の騎士に囲まれながらお茶を飲んでいる老人と女性が座っている。老人は王冠をかぶった男性で50歳を過ぎていてもうすぐ老衰の危機を迎えそう。女性は二十歳前後の美女。真っ白で、細かい金色と赤色の施された法衣を纏い、頭にかぶった帽子からはヴェールが垂れている。近衛騎士に睨まれて跪く一行。ゼラーダと国王の短い会話のあと、教皇が口を開く。
教皇はアバカルガ東区での冒険（準GS17.2話『ガルムを訪ねて三千里』）で東区の神殿出張所にいたアコライトだった。短い挨拶の後で椅子を出してもらい一行は座って依頼の話聞くことになった。さりげなく国王に失礼がないようにと一行を牽制してからファリスは話し始めた。

依頼

ガルム一家にまつわる抗争を収めた冒険者の姿を見て剣王国の外には冒険者という大きな力があると知ったファリス。この後関わる事が無いと思っていたが、冒険者の力が必要と思われる状況になってきた。
二ヶ月前、光の勢力と闇の勢力との大戦があった。教皇の曾祖父であるエル・ファリス二世はその戦いで闇の勢力の王と戦って討ち死にをした。その戦いは両軍とも戦力を総動員しての戦いで両軍に甚大な被害があった。向こう十年は両軍とも力を蓄えるために平和が訪れるかと思われた。
ところが一ヶ月ほど前に闇の勢力に暗黒神殿パティシエルが現れて闇の勢力をまとめ始めた。もちろんそんな神殿は知られておらず発見もされていなかった。大戦で疲弊した光の勢力は復興で精一杯で対抗する力がほとんど残っていなかった。それでも、**ファリスの守護天使であるラファエルが率いる天使のみで構成された光の勢力では最大の力を持つペガス（南海ではお伽噺の幻獣で目撃例はない）を駆る天馬騎士団を派遣して暗黒神殿パティシエルの調査を行おうとしたところ、騎士団が丸ごとパティシエル側に寝返ってしまった。**パティシエルの勢力は光の勢力の各地に人間のふりをして現れて地方の村や町で妙な活動をするようになった。光と闇の大戦の直後で正規軍を動かすと民衆に不安を与えてしまう。しかし天馬騎士団に対抗する力は旅人たちにはない。そこで、**剣王国を自由に活動して不審ではなく天馬騎士団に匹敵する力を持つ冒険者たちの力を借りることとなった。**

- ・ 妙な活動とは、**二人組で家を訪問してしきりに集会に勧誘すること。集会で何が起きているのか、集会に参加した人はみな口を閉ざして語ろうとしない。**まだ、犯罪を行っているという確証もないため強制的に聞き出すこともできない。二人組には**外見上の特徴はなく普通の人に見える**ようだ。
- ・ **話を聞いた旅人たちが闇の勢力の地域に向かったがみんな天馬騎士団によって駆逐されてしまった。消息は不明**である。**天馬騎士団だけではなく剣王国各地の神殿の守護天使たちもパティシエルに取り込まれてしまい、このままでは剣王国は闇の勢力に飲み込まれる**かもしれない。
- ・ 王国内には冒険者を派遣することに反発する者たちもいるが、ファリスは冒険者以外では解決できないと思っている。
- ・ パティシエルがどのような存在であるかを調査して駆逐して欲しい。
- ・ **現在、闇の勢力は剣王国南西部の1/3ほどの広さになっている。そこは妖魔やダークエルフが支配する土地となっている。**
- ・ パティシエルの本拠地と思われる場所は**この場所**のようだ。
- ・ **天馬騎士団が守っているせいで調査隊を送っても行方不明にされてしまうため内部の情報は分からない。**
- ・ **天使とははるか北の地（二月の丘付近）からやってくる不思議な人々。（羽有り）ファリスたちの信仰を守るために【エリ】より遣わされてきたと口にする。**天使たちは神殿に在中したり王城や神殿を巡回して信仰を励ましていた。
- ・ ファリスの守護天使も彼女が子供の頃から一緒にいたという。
- ・ **パティシエル以外の既知の（バアルやソドマなどの）暗黒神殿の動きは沈静化している。**

ここで、テーブルにお茶（ストレートティー）とお茶菓子（ミルクせんべいのようなもの）が出てきた。**聖餅というお茶菓子は甘くなく塩味でもない。**

- ・ **甘味は人々を堕落させ、太らせるものとして可能な限り避けるようにというのが剣王国の文化。果物は食べられるが、双子神殿の高位司祭には果物も許されない。**
- ・ **剣王国は古来より外部からやってくる人々を敵視する文化の中にある。外国から持ち込まれる様々な技術は剣王国の人間にとっては害となるものとみなされる。**従って、外からやってきた異文化の戦い方をするホオヅキの冒険者たちを、騎士たちは快く思っていない。
- ・ ショコラッテは昔から大穀倉地帯として用いられていた場所だが、闇の勢力によって占拠されてからは、食糧事情も芳しくない。一時は砂糖が大変な高値で取引されることもあった。大穀倉地帯ショコラッテの奪還は剣王国にとっての悲願でもある。
- ・ **暗黒神殿パティシエルは以前戦った闇の勢力とは完全に別物のようだ。記録にも噂にも存在しなかった。**
- ・ 剣王国では外から来る人々を歓迎しないといっても、事情をしらなければ変わった旅人程度にしかとられない。反感を感じているのは事情を知っているが冒険者の実力を知らない騎士たちだけである。



驚愕と挑戦

ここでガルガノスが国王に発言の許可を求める。**ショコラッテ地域の天使討伐に身内の不始末を憂いての独断で王国騎士団が向かった**という。

天馬騎士団と王国騎士団の戦の場にワーロックが現れた。戦に不正があるときに戦を止めると言い伝えられている**ワーロックだが、天馬騎士団の後ろから現れたパティシエルの幹部に敗北し、死体のような状態になって連れ去られた**という。**パティシエルの幹部の戦闘の様子は目撃者が錯乱していて聞くことができない。**

ワーロックを倒すような理不尽な敵に対し冒険者を送り出すことにガルガノスは賛成できないと言い、ファリスも依頼を取り下げようかとホオヅキの冒険者に問いかける。

しかし、ホオヅキの冒険者たちは、天使たちを救出するという目標を加えたうえで依頼を受けるという方針で一致する。

そこに、**冒険者たちをショコラッテに派遣することに納得できない王国騎士団の団長バラクが乱入**してくる。

バラクは部下が無断でショコラッテに向かったことを詫言ると同時に発言の許可を求める。

ガルガノスは無礼を咎めたが国王は発言を許可した。

バラクは部下が無断で出撃したとはいえ、**王国騎士団長である自分を差し置いて蛮族（ホオヅキの冒険者たち）がショコラッテに向かうことが納得できないと言う。**ガルガノスとファリスはそれぞれに咎めるが、**バラクは旅人から叩き上げで栄達した自分ではなく、身も不確かで実績を挙げていない冒険者が信用されることに納得がいかない**という。

国王はファリスの根回し不足と教皇を諭し、国王もまた冒険者の力を見ていないからと、剣王国でも一二を争うバラクと冒険者の決闘を提案する。

ホオヅキの冒険者たちは、手短かに話し合っ**て代表でディルを出すことに決定し、闘技場でディルとバラクの決闘が行われることとなった。**

決闘

こうして、ディルとバラクは半径30mの障害物のない闘技場で対決することとなった。

バラクは盾を持たず、青く光る両手剣を構える。バラクは特殊なスキルは持っていないようだ。

バラクもディルも敏捷は18で同値のため、ディルが先攻となった。

1ターン目

ディルは、生け捕り、集中、騎士宣言、騎士道大原則を宣言。バラクは宣言もなし。

先手を取ったディルは**超重剣ダブルフレイムで幻影刃を放つ。重い双撃がバラクの分厚い金属鎧を貫通するがバラクは倒れない。**

バラクの反撃は通常攻撃だがこちらもディルに負けず重い一撃。回避を放棄したディルに他の冒険者なら一撃で倒せるほどの斬撃が通る。ディルもまた倒れない。

バラクは**小手先の技がなくとも、岩山の竜や闇の魔人やヴァンパイアも屠ってきたと誇る。**冒険者は剣王国の外で好きに生きればよい、しかし、剣王国では好きにさせないと言い放つ。ディルもまた負けるわけにはいかないといい放つ。

2ターン目

ディルは集中と騎士道大原則を継続。バラクの剣はさらに青く輝いていく。

剣からバラクに力が流れ込んでいるように見える。ディルは戦いながらバラクの剣を鑑定する。

レイザーエッジ：剃刀と呼ばれる鋭い切れ味を持つ魔剣。命中・ダメージに+2のボーナスがあり、クリティカルを9に固定する。クリティカルしない相手にもクリティカルを及ぼす。生命力が残り半分を切ると、すべての行動に+2のボーナスを与え、持ち主を守護する。【固有効果】剣王国内で使用する場合に限り、次のボーナスを及ぼす。取得戦闘スキルが2種類以内：すべての行動に+3
取得戦闘スキルが1種類以内：すべての行動に+4 取得戦闘スキルが1種類、かつ一次職である。：すべての行動に+5
剣王国の騎士、魔術師は自らのスキルを一つ、かつ一次職に限定することで絶大なボーナスを得る。外の世界の勢力が侵略できない理由はここにある。すべての戦闘員がレベルを5つ分下駄をはかされている。下級職だとおもって舐めてかかると敗走する羽目になる。「剣と魔法の世界」をかたくなに維持している剣王国は一種の特殊なフィールドになっているようだ。当然剣王国の外ではこんな効果は得られないが、彼らは王国から外に出ないので一向に問題ない。

バラクの強さの源を知ってしまったディル。井の中の蛙で果たして良いものだろうかと思う。再び放った幻影刃はバラクの切り払いで止められる。すぐさまバックステップで4m後退して装備を超重剣ダブルフレイムからはがねのつるぎとオリハルコンタワーシールドに持ち替える。

バラクは4m前進して打ち込んでくるがディルのブロッキングパリアで阻まれる

3ターン目

集中と騎士宣言と騎士道大原則を継続するディル。

バラクは盾を使ったディルを挑発してくるがディルはそれに構わずにはがねのつるぎで通常攻撃をしてからタワーシールドでフェイントをかける。はがねのつるぎはバラクの切り払いで阻まれるがフェイントは成功する。

バラクの通常攻撃をブロッキングパリアで弾くディル。投入をためらっていたサブアームを使用することにする。

4ターン目

集中と騎士宣言と騎士道大原則にダークソードを追加するディル。

エリュティアグランデで放った双撃は片方だけがバラクの防御をかいくぐり、英雄のノルドアックスは避けられる。

エリュティアグランデのダメージで瀕死状態に陥ったバラク。

ここで国王のストップが入る。決闘はディルの勝利に終わった。

決闘の後で

バラクを瀕死まで追い込んだディルをはじめとした冒険者は力を認められ、改めて国王からショコラッテに赴くことを依頼され、ディルが代表してそれを拝命した。

ホオヅキの冒険者は王印を得た。特別に任務を与えられた者が身に付けられる、王様の印鑑によって焼き印がしてあるプレートであり、これを首から下げることで王国騎士に協力を得たり、立ち入り禁止の場所に入ったりできるようになる。なくしてはいけない。

騎士団長バラクもディルの強さを認め、失敗は許されないとプレッシャーをかけた。

ヘラとエティリスはそれぞれファリスに質問する。（エティリスの質問は天馬騎士団に天使以外にいるか？というもので既にこれまでの情報に入れてある）

ファリスの守護天使ラファエルは気品があって誇り高く絶対に悪を許さない気高い人で、まだ裏切ったことが信じられないという。ラファエルからは一通の手紙が送られてきたという。『自分に嘘をつくことができなくなりました。ごめんなさい』とだけ書いてあったらしい。

ゼラーダの計らいでホオヅキの冒険者たちはその夜は双子神殿に部屋を貸してもらい、翌朝出発することとなった。

朝食

騎士団長バラクとの決闘でディルが勝利したことで、国王から正式に南西征伐の任を受けたホオヅキの冒険者たち。

その夜は双子神殿に宿泊させてもらい翌朝を迎えた。

神殿から振る舞われた朝食はハムエッグとパンそしてミルクの質素な朝食だった。美味しく朝食をもらう一行。

エティリスは神殿の司祭をお願いして剣王国の地図を貸してもらおう。ミヤとハンスが地図の内容を写真記憶した。

セフィは司祭から乗合馬車の駅を教えてもらった。

南西の大穀倉地帯ショコラッテは闇の勢力に支配され、30年ほどその地を巡って戦になっている。その時から食糧難は続いている。

ショコラッテが闇の勢力に支配されてから逆に流通するようになったものはないようだ。

アパパカルガの街で武器は売られていないらしい。

アリーヤは位置把握のために、クロウに自分の指輪（達成値+1発動体）を貸した。

シーフギルド

フォルトゥナとヘラとミヤとクロウはシーフギルドへとやってきた。

ミヤとクロウはシーフではないのでギルドの外で待つことに。

開口一番『なんだ、またよそ者か』とぼやく情報屋からヘラとフォルトゥナは情報を買う。

- ・ガルム一家は剣王国を出て神秘の国（サンク・トラガ？）に入った。
- ・ヘロディアは南西の大穀倉地帯ショコラッテをうろついているという目撃情報。まだ誰かに関わっているわけではなさそう。
- ・南西地区のガイドは光の勢力の最南端の街バロックで【猫の字（ねこのあざな）亭】という宿に泊まっているダークエルフにさせる。接触方法については『行けば分かる』との回答。
- ・王宮の王国騎士団が騎士団長に内緒で独断で南西征伐に向かったが、寝返った天馬騎士団によって全滅させられた。天馬騎士団が寝返ったという情報はまだ極秘のようだ。
- ・『またよそ者か』と言ったのは一ヶ月ほど前にアパパカルガで武器の密売をしようとした者がいたからだった。結果的に何事もなかったらしい。
- ・最近現れたパティシエルという教団が闇の勢力で台頭している。穀倉地帯の中に本拠地を構えていて、強さも規模も相当なものらしい。詳細は現在調査中だが、光の勢力の村にもある程度浸食が始まっているらしい。
- ・何度も遠征や征伐が行われたが、パティシエルの幹部と名乗る者にことごとく排除されている。現在は四人の名前が分かっている。【ラカント】【ステビア】【サッカリン】【エリス・リトール】一人一人が騎士団長を上回る実力を持つらしいが、そのような実力者がいれば普通は何かしら情報が伝わるはず。何もかも概算臭い連中で、何かインチキがあるとギルドでは睨んでいる。
- ・南方の農村ロロカ村が現在浸食中らしい。
- ・新しい情報が入ったら案内人のダークエルフに仲介を頼みたいと言ったら、『お前たちは金を払ったんだから好きにすりゃいい』との回答だった。

娼婦アイナ

アリーヤとレイナとエティリスは高級娼館ラヴィアンローズに向かった。
時刻は朝八時。娼館の営業は終了していた。営業情報もよく分からない。
娼館の裏に回ると娼婦たちが煙管をふかしていた。

エティリスが娼婦たちに挨拶すると娼婦たちはエティリスを知っていた様子。アイナとのベッドの上での勝負が有名になっているらしい。娼婦たちから**娼館が開くのは午後の五時だが、アイナに会いたければ裏の酒場で飲んでいる**と教えられて、酒場へと移動する。

行ってみると、そこは裏通りで一番高い酒場だった。中に入るとアイナがカウンターでカクテルを飲んでいて、他にも用心棒や娼婦など夜の仕事をしている人々が飲んでいる。内緒話をしようと声をかけるとこの場で良いとアイナに言われ、話し始める。**アイナはエスプレッソにたくさん砂糖を放り込んでいた。エスプレッソを飲み終わるとさらにカップの底に残った砂糖にグラッパ（ブランデーに近い蒸留酒。食後酒としてよく飲まれる）を注いで飲んでた。**

- ・ゼラーダ枢機卿は非の打ちどころのない人。
- ・ガルガノス公爵は王宮の良心とまで呼ばれている。武器密輸の騒動もこの人を暗殺しようというものだったらしい。バラク騎士団長との仲がいまいち良くない。
- ・バラク騎士団長はぶっきらぼうで武骨で乱暴者で人格的にはどうかと思うが、彼なりに国にとって何が一番良いことかを考えている人。ガルガノス公爵との仲がいまいち良くない。
- ・以前、アパカルガの街の中に妖魔が侵入した事件（準GS17.1話『武器横流し』）の騒ぎ以降、王宮内の地盤はむしろ整った。ガルガノス公爵とバラク騎士団長の中がいまいち良くないのが不安要素。
- ・天馬騎士団は剣王国の中では有名。大きな戦があるたびに姿を見せるが、一般人は一生見る機会がなさそう。戦になると人知れずやってくるイメージらしい。
- ・甘いものを食べるのは堕落のしるしだと言われていて、ストイックな人たちはそう（甘いものを遠ざける？）しているらしい。アイナには関係ない。別に違法というわけではないが、人前で甘いものを食べるのは恥ずかしいことだという感覚はあるらしい。
- ・甘いものは規制されているから、なかなか手に入りにくい。甘いものを手に入れるならイケナイ所に決まっている。砂糖程度なら双子神殿の聖騎士ゼニールも見逃してくれるようだ。
- ・パティシエルの集会は単純にケーキが出てくるお茶会らしい。甘いものを食べてお茶を飲む。しかし恥ずかしいことだから誰にも言わない。危険な儀式だと思われるのか、躍起になって探りを入れられているらしい。
- ・アイナ自身はパティシエルの集会にしきりに誘われるがまだ参加はしていない。甘いものは一人で楽しみたい派とのこと。
- ・神官や天使などは危ない（パティシエルに誘惑されやすい）だろう。
- ・パティシエルの集会は南部の村ならどこでも行われているようだ。アイナが聞いたのはロロカ村のこのようだ。
- ・アイナが偽物ではないかと勘繰ったエティリスだが確かに本物だった。
- ・アイナとの話に耳を傾けていた人は特にいなさそうだった。
- ・アイナと別れてから交易所に立ち寄った。交易所の取引は普通に行われていた。食料品の相場も大戦以前（準GS17.1話や17.2話の時）と変わっていない。
- ・交易所から特に際立った会話も聞こえてこない。
- ・合流するときに通った中央広場の屋台をそれとなく見てみたが、確かに甘いものは売られていなかった。

少し検討

街中で武器は売られていないようだ。武器はすべて王宮が買い取って戦後復興に充てているらしい。
ソドマ神殿は北区にはないようだ。東区のソドマ神殿に行こうとすると片道で5時間はかかるらしい。

街を巡る

エルルとディルとハンスとユリーカは露店にやってきた。

露店で売られていたのは生活雑貨と食料と衣服だった。かろうじて果物が売られている。

果物を作っているのはアパバカルガ南部の農耕地帯。娯館や娯楽施設での需要が主らしい。

林檎とミカンを買収むディル。砂糖はなかった・

ついで、商人ギルドに移動した。

復興中の剣王国で不足しているのは武器防具だが、取引には王宮の許可が必要なようだ。

現在は非常事態宣言中で一般の商船の交易は認められていないらしい。

大戦の前後で急に不足した物資や逆に流通量が増えた物資がないかを聞くが取りつく島もなかった。

王印は南西征伐に関連することのみ有効である。（行動がどう南西征伐に繋がるのか説明できた方が良さかも）

神殿で枢機卿と

エルルとヘラとエティリスは神殿に入ってゼラーダ枢機卿の話聞くことにした。

神殿の中ではゼラーダ枢機卿が説教をしている。**甘いものへの誘惑の話やパティシエルに対する注意喚起の内容はなかった。**

礼拝堂に天使の姿はなかった。

ゼラーダ『どのような正しい言葉でも、悪用することによってその意味はすべて変わってしまいます。**聖典の御言葉に立つということとは、字面をなぞることではなく、そこに込められた神の御心を読み取ることです。**墮落した人間も聖典の言葉を使って言い訳をします。しかしそこには神の御心はありません。ゆめ ゆめ注意しながら聖典の言葉を読むこと。そして日々たゆまず**神の御心が何かを考え続けることが、私達の信仰の礎となるのです**』

ゼラーダ『それゆえに貴方達は学びなさい。**神は悔い改め無しには、私達の前から困難を取り除けることをなさいません。**しかし、**一度神が困難を取り除けると言われたならば、私達の前からはどのような困難も取り除けられるのです。**十分に悔い改め、神に助力を祈り、秩序に従って生きることを尊びなさい。それが私達にとってもっとも大切なことなのです。それではお祈りを致しましょう』

光の勢力の地では有益な情報は得られないだろうと言うゼラーダから話を聞くヘラとエティリス。

- ・ **天使たちは天馬に乗り空を飛びながら弓矢や槍で戦う。**
- ・ **天使たちを救いたいならば無理に戦わず暗黒神殿を討伐すれば洗脳も解けるだろう。**
- ・ **天馬の駆ける速さは燕と同じくらいに見えた。**
- ・ **天使を見ることが許されるのは戦場に出た者のみ。光と闇の決戦でも40年ぶりに姿を見せたという。ゼラーダ自身でさえそれが天使を見た初めての経験だった。**
- ・ **（ファリスとラファエルのように）天使と深く交わることができるのは一部の特別に聖（きよ）められた者のみ。**

ゼラーダの説教と並行して神殿の外ではユリーカの説教があったという。

乗合馬車

御者は暇そうだった。パロックに行こうとすると途中でアンデッドが襲ってくるかもしれないとのこと。

馬車のチャーターは一台あたり五人乗りで一台500セレン。用心棒を雇うと2000セレンの追加料金。所要時間は5日間とのこと。

御者はレベル5以下のアンデッドが近寄らない護符を持っているので安心らしい。護符の詳細は不明。

現在は戦後処理中。アンデッドが自然発生して運賃も高い。自分の脚で歩いて平原を渡るのは自殺行為。少なくとも向こう半年は南部の村に行く者はいないだろう。

一度戦場跡を突破して南部に渡ってしまえば、その間を行き来するのは危険ではないとのこと。

一行は乗合馬車を用心棒付きで三台チャーターして出発することとなった。

バロッカへ移動

乗合馬車でバロッカへと移動した。比較的安全な街道を移動。

最初の二日間は何も起きなかったが三日目に人や妖魔の死体の悪臭に満ちた戦場跡に差し掛かる。

さっそくデューハンに襲撃されるが用心棒のフィガロ兄弟が率いる傭兵団に無傷で撃退される。

光と闇の大戦の後で死体を処理する余裕もないので戦場が放置されている。

徒歩で戦場跡を抜けようとするすぐにグールに取り巻かれるので馬車や馬でなければ無事では済まない。

その後も妖魔やアンデッドに襲われたが冒険者の出番はなく、フィガロ兄弟が守り切った。

バロッカ

用心棒のおかげで一行は無事にバロッカに到着。人口1000人ほどの街で戦の後なせいかピリピリした雰囲気。治安はそこそこ。**アバパカルガとは違い聖騎士がものものしい警備をしているわけではない。**街の中はまさに剣と魔法の世界。戦士や魔術師や僧侶が一目で見分けるような姿をしている。**冒険者向きの店は見当たらず、気になる臭いもなかった。**

通行人の女性に話しかけて猫の字亭の場所と猫の肉球マークの看板があることを教えてもらう。女性はアンデッドだらけの平原を渡ってきた一行に少し驚いていた。**バロッカに来るときに雇った用心棒がフィガロ兄弟の傭兵団という凄腕だということと、この街の神殿がアルマーサの神殿だということ、街の南に地図屋があることも教えられた。**

女性の言ったとおりの場所に猫の字亭があった。中はクラシカルな雰囲気。店員はウェイトレス姿のフェルパーだった。宿泊は一泊が一人部屋で10セレン、二人部屋で15セレン。泊まっているのは胡散臭いエルフの男だけだった。

飲んでいたエルフは柄が悪くダークエルフが白粉をはたいたようにも見える。腹の上に羽の生えた猫が乗っている。シーフギルドから紹介された案内人Jだった。フォルトゥナがシーフギルドからの紹介状を見せるとJは依頼を受諾。さっそく質問タイムが始まった。

- ・街で地図は売られているが信頼性は高くない。Jの案内があれば十分。
- ・**ロロカ村はバロッカから歩いて2日間の距離。ショコラッテに行くなら通り道になる。**道中はゴブリン程度しか出てこない。
- ・パティシエルの連中はよく分からない。見ていてギャグにしか見えない。
- ・パティシエルについて良く知るなら直接見るのが一番早い。

その日のうちにロロカ村に出発することとなり、Jは街の南門で待つという。

猫のリオネルはモンブティを与えると人の言葉を喋った。Jのファミリアらしい。別れ際に幼女の姿になった。

猫の字亭の店員から水や食料のご旅行セットと追加で飲料水や保存食を買い込む。

街の東の外れにアルマーサの神殿があり、ヘラが祈りを捧げに行った。

静かな礼拝堂は灯りが蝋燭だけで薄暗い雰囲気。アコライトと会話をするヘラ。

- ・**ロロカ村では良くない集まりが行われている。**
- ・**今のところはまだないがバロッカにも良くない集まりがやってこないか心配。**

良くない集まりが広がるのを防ぎに行くと言うヘラにアコライトが神の加護を願う。

ヘラと合流した一行は南門へ行き、Jと合流。ロロカ村へと出発した。

ロロカ村への道中

初日は特に何もなかった。

二日目の夜、Jがふらりと出かけて20分ほど戻ってきた。

三日目の朝、ロロカ村への道中で、夜盗やゴブリンやオーガがやられた跡に遭遇。

Jの仕業かと勘繰る一行だがJにははぐらかされる。

ロロカ村

Jの案内でロロカ村に到着した。ロロカ村は小麦と羊で生計を立てているのんびりした村だったが最近様子がおかしくなっているという。村の中を見るとジョギングに精を出している人や木の枝にぶら下がったりしている（懸垂か？）人がいる。羊の世話や農業をしている人もいるが合間合間に運動をしている。ゆったりとした服の上からでは分かりにくいだが肥満している人はいないようだ。ヘラが休憩中の人に事情を聴こうとするとお茶を濁した感じでごまかされ逃げられた。

Jにお奨めの宿がないか聞いたところ、知り合いの家があるからと泊めてもらうことになった。

知り合いの家は街外れにある羊飼いの家だった。

夫トマスと妻ミーシャは新婚夫婦で実の姉弟だった。アルマーサ神殿で一般的な近親婚のようだ。

そのまま夜になり焚火を囲んでの食事を振る舞われる。羊のケバブに白パン、羊にチーズにキイチゴや山葡萄などの果物。

食事をしていると窓の外では松明の火ががちらちらと見える。パティシエルの集会のようだ。

トマスとミーシャによると、街外れの洞窟に異教徒（パティシエル）たちが生活している。村の人々は日の出とともに起きて日の入りとともに眠るという生活を捨てて、夜な夜な集会をしているという。晩夏の羊を太らせなければならない時期なのにまじめに働かず、この冬が越せないかもしれないとのこと。人口100人にも満たない集落だが40人以上が集会に参加。さらに数が増えるのは時間の問題。ここ数ヶ月での変化で、偵察に出かけると言った友人も取り込まれたという。ただ、無理に押し付けてくることはないという。

一行はセフィ（とフォルトゥナ）とユリーカ（と、ハンスとレイナ）を残して集会に出かけることにした。

六芒眼で魔力を視ると村の中央を包むうっすらとしたフィールドが見え、マナの流れが活性化しているのが分かる。

アップルパイの甘美な夜

集会に出かけたのは、アリーヤ、エティリス、エルル、クロウ、ディル、ヘラ、ミヤの7人だった。

篝火を焚いてテーブルクロスを敷いたテーブルを並べた和やかな雰囲気での集会。そこにパティシエ姿の神官（ラカント）が現れる。

この日のスイーツはアップルパイらしい。

ラカント『今日も敬虔なパティシエルの信徒の皆さんに、甘味様のお恵みが降り注ぐのです』

村人s『甘味をあがめよ！甘味をあがめよ！』

ラカント『よろしい！ではお茶会にいたしましょう。愛は糖分。糖分は交わり。糖分は平和なのです。よろしいですか。人は皆糖分が足りていれば争いを起こさないので。糖分がたりないから戦争が起こるのです。甘味様を崇め、甘味様によって心が満たされれば争いは起こりません。甘味様こそ我々を救う救世主なのです。…というわけで、御託はどうでもいいのでお菓子を食べましょう』

テンションの上がった村人たちがパリピっぽくアップルパイを食べ始め、お茶会となる。

腕を組んでお茶会を眺めているJ。一行のところに村人たちが近寄ってきてアップルパイを配る。

村人s『一日一回甘い物を食べるのが教義なんて。素晴らしい宗教もあったものだな』『甘味様で太ると厳罰っていうのが少し辛いですが、でも運動すればいいだけだし』『甘いものは邪悪なんていう双子神も大地母神もくそくらえだよ。甘味様最高！』

実際に食べてみるエティリスとエルルとミヤ。アップルパイは外の世界の名店でもなかなかお目にかかれないようなレベル。

アリーヤとディル（とクロウ）は食べていない。ヘラは食べる演技をした。食べない人に残念そうな顔はするが村人が無理矢理押し付けることはない。

Jによると

- ・パティシエルの活動は一日に一回集まって甘いものを食べ、甘味様（かんみさま）を崇めるだけ。
- ・攻撃されない限り暴力に訴えることはない。
- ・その割には着実に方々の村に食い込んで着実に信徒を増やしている。しかし、トマスやミーシャが言ったような生活の変質が起こっていて悪影響が出ている。

・まぎれもなく闇の勢力の暗黒神殿だとJは言った。

村人によると

- ・深夜2時まで甘いものを食べて騒ぎ、寝るのは朝の4時。起きるのは昼前。
- ・甘味様を食べすぎて醜く太った人間は、甘味様の怒りを受けた墮落者の烙印が押される。
- ・墮落者には甘味様を断たれて、二か月の間、地獄の修練（ダイエット）の刑罰が待っている。（ロロカ村にはまだいない）
- ・従って体重が増えないように昼間に運動をしている。
- ・お菓子は毎日無料で食べられる。穀倉地帯から豊富に砂糖など材料が送られてきて、神官というお菓子職人も来るという。
- ・農作業は運動の合間にちょこちょこしている。手を抜いても収穫が多少減るだけだから平気だと言う。
- ・ロロカ村にパティシエルが来てからまだ一ヶ月ほど。
- ・神官は、ラカン・トゥと名乗っている。

村人から話を聞いていると神官（ラカント）が近づいてくる。パティシエ姿で顔に白粉を塗って歌舞伎のようなメイクをしていて見

た目で性別は分かりにくい、声は男のようだ。

ラカント『あなた方には甘味様のご加護があるようだ！あなた方もさあ、心行くまで甘味様を堪能してってくださいね！ただし、太ってはいけません。太ると甘味様は無関係です。太り醜くなることと、崇高なる甘味様を関連付けてはいけません。甘味様が悪いのではありません。自己管理ができない怠惰なわたくしたちのせいで太るのです』

ラカントによると運動は有酸素運動が良いという。ウェイトトレーニングでは体形は変わらないらしい。次の日はプレミアムロールケーキだとか。

ヘラがお菓子を作れるというときっそく本部を訪ねて入信して欲しいとラカントにスカウトされ、パティシエルの聖印（ラカント）

を受け取った。次いで、エルルとエティリスとミヤも受け取る。聖印を受け取る資格があるのはプリーストでクックマスターのスキルを保有している人だけで、幹部候補生として入信ができるらしい。

本部を見学するだけなら聖印は必要ないとのこと。

パティシエルの本部はお菓子の城だとか。追加のアップルパイが焼きあがるというのでラカントはくるくる回転しながら窯の方に行ってしまう。

Jがパティシエルについてまとめる。

- ・ 暗黒神殿であるはずなのだが掴みどころがない。
- ・ どのような目的と文化的背景で生まれたのかが分からない。

・ にもかかわらず、ウォーロックのホワイト・バロウズはパティシエルの幹部エリス・リトールに殺された。

- ・ 本来はウォーロックが敗北するなどあり得ないのだがどのような不正がはたらいているかが分からない。
- ・ 信徒が増え、布教が進むのは宗教にとって良いことだが、金を集めるでもなく行動に理がない。
- ・ パティシエルの本拠地は分かっているが信仰心がないは案内できるが潜入することができない。
- ・ ウォーロックのホワイト・バロウズが死ぬところはJも見ていた。ゴスロリドレス姿の少女エリス・リトールと会話をしているうちにひとりで首がへし折れた（不意討ち？）らしい。死体は引きずって行かれたとか。

ヘラとアリーヤとディルはお土産にアップルパイを持って途中で引き揚げた。エルルとエティリスとミヤは最後まで付き合った。終わってみれば午前三時。その夜は干し草にシーツをかぶせたベッドで睡眠。

村人s『甘い物はあしたまでお預けか』『はあ、鬱だ。寝るか』『仕事も適当でいいよね。どうせ毎日甘い物たべれるし死ぬこともないしね』

閉会後に魔力視したミヤは何かを吸い上げているような感じ（魔力の流れ）を見た。

ウォーロックとは？

すべての魔術師の頂点であり、すべての系統の魔術と、すべての遺失した呪文を管理し、行使する最高の魔法使い。常に世に一人と言われ、その位は後継者に指名されるか、一騎打ちで勝利した相手にもみ継承される。主な仕事は世界の管理。世界のバランスを著しく崩すような不正があった場合、戦争に介入してその戦争を凍結（フリーズ）させることから、ワーロック（戦争を凍結するもの）とも呼ばれる。

翌朝

翌朝午前八時。最後まで集会に参加したエルとエティリスとミヤは睡眠不足を感じた。

既に一仕事終えていたトマスとミーシャ。

トマス『なるほど、そんな集会が。本当に困ったものです。過度に甘い物、過度に美味しい物を食べすぎると、私達は自然な体のバランスが崩れてしまうのよ』

ミーシャ『不自然なものに気をつけなさいとはアルマーサの教えなのですが、だからこそ普段それを快く思っていない人は簡単につまずいてしまうのよ』

集会に参加していた人は虚脱感・やる気の喪失、糖分摂取の欲求増強を感じる。参加しただけなら微弱なものだが実際にアップルパイを食べたエルとエティリスとミヤ（とJ）への影響は大きかった。ただし、今のところステータスへの影響はない。

ディルの持ち帰ったアップルパイには特に魔力は感じられない。

はっきりした自覚症状のあるエティリスをミヤに魔力視してもらいながらヘラが診察をした。

診察の結果、次のことが分かった。

- ・体調的に異常はなく、魔力的にも精神力を吸われているわけではない。
- ・吸われているのはやる気そのもの。モチベーション、念じる力、信念などの減退がみられる。
- ・このまま影響を受け続けると、鬱状態に移行する。
- ・運動することでやる気が多少回復する。しかし運動によってやる気が回復しても、夜には吸い取られるので臆ごっこ。最終的には鬱に到達する。

Jはまだ情報が少なく何とも言えないと言う。

エティリスは太ったらいけないと思い、村の中をランニングする。ランニングの結果、虚脱感ややる気のなさ、疲れから回復した。ヘラの提案でランニングから戻ってきたエティリスとエルでえっちな運動をする。これでエルも虚脱感、やる気のなさ、疲れから回復した。ランニングとえっちな運動での回復には大した差がみられなかった。また、糖分摂取への欲求は一向に収まらない。クロウは居場所把握のためアリーヤから借りていた指輪を返却。アリーヤは同じ指輪を今度はエティリスに渡し、エティリスはその指輪を左手中指にはめた。

トマスとミーシャはヘロディアらしき人物を見かけていなかった。

ミヤはアップルパイを食べたことによる変調が身体に対するものなのか精神に対するものなのかを判別しようとスロットを変更したが、どちらとも分からなかった。失ったやる気を回復するためにミヤは踊った。

セフィは自ら罠に飛び込んだエティリスを叱った。

昨夜マナのフィールドは村の中央にあった。村の中央には深さ7mほどの井戸があったが特に何も見つからない。井戸の中の調査の許可をミーシャに求めたが水が汚れるからと断られてしまった。トマスとミーシャも村の中央に特に変わったものは見ていないという。翌朝午前十時現在、フィールドは消失していた。

クロウは村の様子を見まわることにしたが、特に変わったものはなかった。ただ、起きている村人は半分にも満たない。まじめに働いている村人はごく少数だった。

昨夜集会が行われた洞窟ではラカントがせっせと薪割りをしていた。その周囲にマナは特に感じられなかった。

エティリスは昨夜のアップルパイの味を思い出したが、普通の、恐ろしく精度が高いアップルパイだった。

これ以上、村を調査しても情報は手に入らないと判断した一行は水を補給してからショコラッテに向かって移動を開始した。

闇の統べる世界へ

闇の勢力の村や集落へ向かうにあたって変装が必要だとJに言われ、シャドウであるレイナとダークプリーストであるエルル以外の一行はそれぞれ変装した。（詳細は変装状況まとめに記載）

村を避けながら移動して7日間かかってショコラッテに到着した。闇の勢力も個体数が減っているためか襲撃はなかった。

大穀倉地帯ショコラッテ

オーガやゴブリンたちがせっせと耕作している。サトウキビ畑や小麦畑があたり一面に広がっている。

思わず光の勢力の村との差に不安を感じる。このあたりの公用語は蛮族共通語（ゴブリン語）のようだ。

ウォーロックが倒された場所は既に過ぎ去ったらしい。Jによると調べても何も出てこないようだ。

Jが指さした先に巨大なお菓子の城が見える。雨が降っても（崩れたりすることなく）問題無いらしい。

潜入を前にエティリスに釘をさしておくセフィ。互いに堕ちた時のことを相手に託す。

Jが丘の上に辺りを一望することができる洞窟があるというので、拠点としてそこを選択。

ディルが洞窟内の安全を確認してからテントを設置してカムフラージュをかけた。

洞窟からお菓子の城まではかなり遠く、細かく監視をするためには道具が必要となる。そこでミヤが遠眼鏡を使用する。

お菓子の城の周囲は闇の住民たちが行き来している。物々しい感じはない。

ここで、一行はいったん三つに分かれた。

潜入組：ヘラ、エルル、エティリス、ミヤ

見学組：セフィ、アリーヤ

居残り組：ディル、クロウ、ハンス、ユリーカ、レイナ

ミヤは城に潜入するため、居残り組が城を精度高く監視できるようにクロウに遠眼鏡を貸した。

お菓子の城

潜入組と見学組はパティシエルの神殿（お菓子の城）まで移動した。

神殿の周囲はゴブリン、ダークエルフ、オーガ、暗黒神官が行き交っている。暗黒神官はパティシエ姿ではなくローブだった。（神殿不明）

ヘラは言葉が通じるようにバイリンガルを使用。

お菓子の城は門が開いていて、ピエロ姿の暗黒神官が二人立っている。

潜入組は聖印をピエロに見せ、ラカントの紹介と名乗ると奥へ進むように指示され、見学組は巡回路へと通された。

巡回コース

巡回路には直接城を食べていいコーナーがあった。

大理石になる部分には飴細工が、柱にはロールケーキが、木が使われる部分にはブッシュ・ド・ノエルがそれぞれ使われている。

それぞれの素材はとても柔らかいが城が倒壊する様子はない。

巡回路は一本道の様相。奥の方にパティシエルの女神像が置いてある。この女神像だけはお菓子ではなかった。ヘロディアには全然似ていないし、どこにでもありそうな適当なものだった。

セフィは女神像を写真記憶。

解説の看板などはないがピエロがところどころを歩いているので、さっそくピエロに質問を投げかけた。

・お菓子の城は女神の奇跡により保たれていて、自重で潰れることも雨に負けることもない。

・甘味を広める理由は、

人間は糖分が足りていないから愚かなことをする。

甘いものによって心が満たされていれば争いは起きない。

甘いものを食べ至福を感じている瞬間、人は隣の人のことを殴ろうなどとは考えない。

その至福の瞬間、人間は全ての罪から解放されて真に幸せになる。

ピエロによると、次の日にパティシエルがお菓子の城に降臨するらしい。それが世界を甘味が支配開始する時となる。パティシエルの姿を見ることができるようだ。神殿（お菓子の城）の中庭で公開され信徒でない者でも見ることができるようらしい。光の勢力の妨害などピエロは心配していないようだ。

そして巡回は終了してしまった。

信仰と試験と

奥に連れてこられた潜入組。パティシエルの女神像にパティシエルの聖印を握って祈りを捧げるという試験を課される。この女神像もやはり適当なデザインだった。

光の勢力による侵入を警戒してのものだとピエロは言う。

祈りを捧げてしまったヘラとミヤとエティリスは翌日の正午までそれぞれの神の加護を失ってしまった。

ダークプリーストであるエルルは神（リアナ）の加護を失わなかった。

祈りを捧げた後で厨房に連れてこられた潜入組。

テストとしてレシピを見せられチョコクッキーとバタークッキーを作ることとなった。

レシピ自体はまともなもの。ただの試験のようだが？

それぞれがクッキーを作っていると厨房にエリス・リトールが現れ、戸棚（冷蔵庫のようだ）に入っているクッキーの生地を取り出すとくるくると生地をこねて綺麗な薔薇の形にしてものの10分で焼き上げた。

そのクッキーを食べたエルルとミヤとエティリスはクッキーという次元ではない味を体験する。口に入れて噛んだ瞬間に身体が浮くような感じがした。ヘラはクッキーをもらったが食べずに残しておいた。

お菓子は好きかと聞くエリス・リトールにそれぞれが（差異はあるが）好きと答えると、それは良かった。たくさん甘いお菓子を作らしましょうね。と、言い残して残りのクッキーを籠に入れて厨房から出ていった。

ピエロに彼女のことを聞いた。

- ・彼女が最高幹部のエリス・リトール。甘味に愛された甘味の巫女。彼女以上に上手にお菓子を作る人はこの世にはいない。
- ・ステビアとサッカリンは、エリス・リトールの補佐をしている
- ・最初はエリスとステビアの二人での活動だったが、そこに二ヶ月前にサッカリンが加わって一気に大きくなった。サッカリンは美しい女性らしい。ちなみにサロメの事件は三ヶ月前。
- ・エリス・リトールを導いた教祖が最初にいたが、今は去っている。去るときに一年後に甘味様が降臨すると予言したという。その一年後がちょうど次の日らしい。
- ・教祖がいなくとも甘味様が降臨したら、その先は甘味様が世界を導く。エリス・リトールは甘味様を迎えるお菓子を作っている。
- ・甘味様の降臨は神殿の境内で一般公開する。甘味様を見れば人間はみな悔い改めるだろう。

クッキーの達成値はヘラとミヤ（ファンブルして1回リトライ）が19、エルルが22、エティリスが29だった。結果は全員合格。

本来は研修をしてから方々の村へ布教に出かけるのだが、次の日は甘味様が降臨するので、研修はその後になるらしい。

エティリスがエリス・リトールのクッキーを食べた後では合格も素直に喜べないと言うと、ラカントもそう言っていたが、一ヶ月でその領域に達したらしい。

本殿付きの暗黒神官がピエロの姿をしているのはエリス・リトールがお菓子の城に似合うからと決めたかららしい。

潜入組はまだピエロの格好はさせられない。

合格者には部屋が用意されている。エティリスが練習のために厨房を借りたいと言えば許可が下りた。

お菓子の城の探索

潜入組はそれぞれ探索を開始する。

神殿内は夜になるとほとんど無人になった。ピエロたちも忽然と消えている。

私室

普通の寝室。ベッドと机とクローゼットがある。部屋の内装は全てお菓子。

鍵をかけることはできそう。部屋にはパティシエルの聖典が置いてあり、お菓子の素晴らしさについて書かれている。

厨房の設備は世界最高レベル。ホオヅキの厨房よりも豪華だった。

特に魔法的な仕掛けは見当たらない。ラカントの声を思い出したが聞き覚え無し。

本当はお菓子の城なんて実在しないのではないかと疑ったエティリスだが、幻影ではなかった。

夜まで厨房内にいたエティリス。そこにエリス・リトールが現れた。

何をしているのか聞かれたエティリスだったが、お菓子の練習をしに来て設備を確認していたと言ったらお菓子作りが好きなのねと許してもらえた。そこから会話に繋がった。

・どうやって薔薇のクッキーを作るのかと聞くと、手を冷やして素早くやれば良いと言い、エティリスの手を握った。エリスの手はひんやりしている。エリスの手は熟練のお菓子職人の手だった。

・エリスの実家は有名なお菓子職人で、エリスは三歳からお菓子作りを始めた。エリスは剣王国ではなくアインスの出身だった。剣王国の人にお菓子は悪いものではない。甘いものは平和を作ると教えてあげたいとエリスは言った。そのために甘味様も降臨するのだと言う。

・甘味様がどんな存在なのかはエリスもよく知らないという。一年前にエリスに剣王国に行くように言った人に甘味様が降臨すると教えてもらったらしい。教えてくれた人はフードをかぶった金髪のイケメンだったという。（ゴッドハンドのアインスカ？）

・サッカリンはその教えてくれた人の使いだと名乗ったという。（ヘロディアか？）きっと甘味様は素晴らしい方に違いないとエリスは信じている。

・アインスで砂糖の密輸貿易があったということは、エリスも風の噂で聞いた程度だった。

・話していて、エリスの身のこなしはとても戦闘経験があるようには見えない。お菓子作りが好きなほんわかとした女の子に見える。騎士団長より強いとかウォーロックを倒したなどという話はガセネタだとエティリスには思えた。

・お菓子の城は甘味様の奇跡で甘味様の贈り物だという。エリスがショコラッテに来た時には既に出来上がっていた。

・エリスの目から見ると『協力したいという人が勝手に集まってきた』ように見えるようだ。これも甘味様の思し召しだとエリスは思っている。

・協力したいという人たち（神官と思われる）を各地に派遣した方が甘味様が広がるのも速いとサッカリンが言ったらしい。宣教については全てサッカリンが指導している。

・サッカリンが宣教を始めてからとても力が湧いてくるし、お菓子作りもうまくいくようになった。（集会で吸い取ったものが流れてきている？）

・サッカリンは良い人で甘味様の使徒らしい。

・サッカリンは必要がないと出てこない。明日（甘味様の降臨）にはきっと来る。

・サッカリンは甘味を広めるのは良いことだといつも励ましてくれる。エリスはサッカリンが大好き。

エルルがエリスに話を促すと、順を追って話し始める。

・アインスでお菓子屋をしていたエリスのところに甘味様の使い（教祖）が現れた。見た瞬間に特別な人だと分かった。

・甘味様の使いはエリスに『甘味様があなたを必要としています。だからあなたは剣王国に甘味の福音を伝えるにかなければならない』と言った。しかし、彼はすぐになくなった。その代わり頑張ったらちょうど一年後に甘味様がくだると神託をくれた。

・エリスはすぐにカバンに荷物を詰めて剣王国にやってきた。幼馴染のステビアが心配してついてきてくれた。

・剣王国に来てから一年弱。最初は甘いお菓子に誰も興味を示さなかったがサッカリンが来てから一気にみんなが甘いものを食べるようになった。

・ラカン（ラカント？）もお菓子作りにやってきた。きっと世の中は甘味様によって良くなる。

・ただし、食べ過ぎてはならない。太っては甘いものが食べられなくなる。

・甘味様が下ったらすべてを教えてくれるらしい。エリスは頑張るってサッカリンの言うとおりにした。甘味様への供物も捕まえてきた。（供物とはウォーロックのことか？）

・供物についてははぐらかすエリス。

・去り際に『あなた達も、もうあまり外を出歩いてはだめよ？…いいわね？』と言うエリス。その場にいたヘラ、エルル、エティリスの三人とも、エリスが念押しした瞬間にぞくりとした寒気が走った。何か首根っこを冷たい指先で触られたような感触。

女神像

人気のない神殿の中をうろついたヘラは**女神像**を見ている女性に出会った。彼女は教団幹部のステビアだった。

ヘラとエルルはステビアと会話をする。

- ・自己紹介で**大神官『まあそういうことになってるわ』**とテンションが低く、どことなく他人事。
- ・**甘味様『とやら』が降臨するらしいわね。と、こちらに興味をなさそう。**きっと（自分が）少し異常なのだろうと言うステビア。
- ・本殿（お菓子の城と思われる）では集会（お茶会）はしない。
- ・（パティシエルの神官になるのなら）ステビアとはあまり話をするのは良くないと言う。それよりもエリスと話をして欲しいと言う。エリスが喜ぶとのこと。
- ・ヘラに好きなお菓子を聞かれたステビア。好きなお菓子を言いかけて、途中でやめた。（ヘラを）つまずかせても仕方がないと言い、神官志望でやってきた子に色々あることないこと吹き込んでつまずかせたらエリス・リトールに怒られる。有望なパティシエルの神官がステビアに関わってはいけないと、ヘラに言った。
- ・エルルにエリス・リトールがどこにいるか聞かれたステビア。多分厨房にいると言う。
- ・ヘラに**サッカリンのことを聞かれたステビア。『あの女』呼ばわり。ステビアはここ数日サッカリンの姿を見ていない。エリスは良い子なのに、エリスをそそのかすから、ステビアはサッカリンのしていることが嫌い。**
- ・サッカリンはエリスをそそのかして剣王国各地に神官を派遣して布教させているようだ。
- ・来たばかりのヘラにネガティブなことを吹き込んだと自己嫌悪に陥るステビア。ヘラが抱え込んでいるもののことを話して欲しいと言うと、ステビアはヘラが神殿に馴染んでからとはぐらかした。
- ・ヘラと別れてから**ステビアはそと『甘味様…馬鹿らしい』と呟いた。**

私室再び

情報共有のため、潜入組の四人が同じ部屋に集まった。まずは情報を共有する四人。

ヘラはエリスの威圧を思い出す。首筋に刃物を当てられたような感じだった。

ミヤが六芒眼でお菓子の城全体を見たら、城全体が魔力で満たされているように見えた。どうやらお城自体がマジックアイテムのようだ。

エティリスはエリスの手に触れた時のことを思い出す。確かに手は冷たかったがアンデッドには見えなかった。

ヘラは洞窟に残った組と連絡を取ろうと、まずフクロウに変身しようとしたが巨大すぎて窓から出られず失敗。次に**霊体になって城から出ようとしたら、急激にTPを吸い取られた（1ターンあたり4TP消失）。合計で8TPを吸い取られたヘラ。最大TPではなくTPの現在値が吸われたようだ。**

この城でTPが朦朧状態になると、身体ごとどこかへ吸われて吸収されてしまうことが分かった。（肉体に入ってた場合も朦朧状態になると同様の現象が起きるかどうかは不明）しかし、**肉体に入ったままの通常状態であれば吸われることはなさそうだ。**

潜入組は連絡を諦めて寝ることとした。

街外れの洞窟で

パティシエルのお菓子の城を見学してきたアリーヤは居残り組と情報を共有する。

甘味様などという名前は伝承の中でも聞いたことがない。

パティシエルなどという神は聞いたこともないし、ゴッドス・サイで高位神官が身体に神を降ろすことはあっても本体が直接来るというのは異常。

洞窟から遠眼鏡を使って周囲を見回すと、近隣の村でロロカ村よりも大規模な集会をしているのが見えた。

洞窟ではキノコ鍋を作っている

慣習の変化は「世界」の目に留まるのではないかとJに聞くユリーカだが、まだよく分からないと言われる。

キノコを煮ていると、**何者かが現れた**。南東の方角30m。（お菓子の城は洞窟から見て北西の方角だった）居残り組が隊列を組んで戦闘態勢をとっていると、近付いてきた男は、**眼鏡をかけて杖をついている。クエスタ（ティガール宮廷魔術団副長）だった**。

クエスタは六芒眼でお菓子の城を確認。何かを納得した様子。彼の用事の半分はホオヅキの冒険者たちにはないらしい。

クエスタからホオヅキの冒険者たちへの伝達事項が二つあった。

1.次の日に『この世に存在してはならない物が一つ産み落とされる』（甘味様のことか？ それとも別にあるのか？）

2.ウォーロックが死んだので、色の魔術師にウォーロックの名代としてウォーロックを殺した者を討伐する拒否不能の命令が下った

クエスタ自身は色の魔術師ではないので、復讐（ウォーロックを殺した者を討伐する）者に杖を渡し、復讐の見届け人となる。

その場にいた色の魔術師は二名。**ユリーカが杖（復讐の杖）を受け取った**。

【復讐の杖】ウォーロックが不正な手段、及び不慮の事態で討ち死にした場合、時計塔の威信にかけて仇討することを定められた杖。盟約の元に強大な復讐のための魔術が刻まれている。杖に刻まれた術式は2937項目に及び、復讐を代行した魔術師に大きな力を与える。魔力+4、術式理解+3、すべての術のTPの消費を-1する（0にはならない）。ターンごとにTPが4回復。一度装備すると、盟約を果すまでは装備解除できない。特殊効果：上位魔術、特殊魔術の全系統の全ての術が使用できるようになる。

なお、クエスタはクライナルテルについては関知しない。クエスタからは自分が立会人になるので**時計塔の威信を損なわない行動を求められた**。彼自身はエリザベートの力で国を長期間空ける許可をもらい長期休暇中。

ウォーロックの死体の利用法についてクエスタに訊いてみたが、ウォーロックを倒したと誇示するのが目的ではないかという見解だが、誰もウォーロックを倒したと宣言しないのはおかしな話だとのことだった。**魔術的な利用法があるとすれば交霊術の媒体にすることが考えられる。故人の遺体であれば最高の聖遺物となる。または単純に蘇生させようとしていることも考えられる**。

クエスタからお菓子の城を魔力視することを勧められたので、魔力視をしてみた。

・城が光り、各地から細い光の管のようなものが集まって城に注がれている。

・光の管は麓にある闇の勢力の街の一部からもロロカ村の方からも出ている。パティシエルの集会が行われているところに魔術の力場が現れて何かを城に向けて送り届けているようだ。

魔力視をした結果をセフィが解釈すると以下のような仮説が成立した。

【多分吸い出されているのはやる気そのものだろう。思念エネルギーとも言える。これがさらに強くなると、TPを直接吸われる形になると思われる。今現在、お菓子の城に近づいたら、肉体のある人間はともかく、幽体やアストラル体、思念体の者は丸ごと吸収されそうに見える。思念エネルギーの使い道として考えられるのはデバイスリフレクター。デバイスリフレクターは反射する思念が強いほどに具体的な形を具現化させる。先刻セフィが観測した思念がデバイスリフレクターに毎日注がれば、何が起ころか見当もつかない】

情報も内部も分からない今の状態で正面からウォーロックをも倒した相手を急襲することはクエスタに止められた。潜入組との情報共有が必要そうだ。お菓子の城は思念体にとっては致命的だが、生身の身体には現在のところ影響はない。

お菓子の城へ

見学組と居残り組はクエスタとJを置いてお菓子の城へと向かった。セフィはフォルトゥナをクエスタとJに預けた。ユリーカの杖の先端にはクエスタの蝙蝠がお目付け役として乗った。(ファミリアだとは言っていない) 蝙蝠を通じてクエスタと通信が可能になった。

時刻は23時頃。闇の勢力の街はパティシエルの集会で浮かれている。アリーヤの先導で難なく城まで到着。

お菓子の城は不気味なくらいに静まり返っている。石を放り込んでも反応無し。

城門は開いている。城の外壁はショートケーキ。壁に穴をあけることはできそう。城壁をよじ上るのも可能そうだが生クリームまみれになりそう。食べることもできそうだが、今食べると根こそぎ持っていかれそうに感じる。

セフィが各地から集まった魔力(?)の流れを確認すると城の頂上の避雷針のようなものに集まっていた。

アリーヤ・ユリーカ・セフィの三人で城門から潜入することとした。

城門を見ると、左右と正面に道が分かれている。正面はセフィとアリーヤも見つた巡回コース。右は潜入組が通されていった方向。

アリーヤたちは右へ進むこととした。右の中庭を進むとチョコレートのドアがあり地面の足跡は全てこのドアの奥へ向かっている、さらに横には奥へと進む道があり、いくつか光の漏れている窓があるようだ。

アリーヤはドアの横の奥へと進む道に入り、一番近い灯りのついた窓に接近した。私室のような部屋の中では大人しそうな生真面目そうな女性が机に向かって書き物をしている。時々溜息をつきアリーヤには気づいていない。

次の部屋は空、その次の部屋ではピエロが躍っている。いくつか窓を覗き込んでいるうちに潜入組のいる部屋にたどり着いた。

アリーヤは窓をノックして潜入組と合流した。アリーヤと潜入組はここで互いに情報共有をした。

お菓子の城再探索

アリーヤ、セフィ、ユリーカに加え潜入組のエルル、ヘラ、ミヤ、エティリスは改めて情報を共有して今後の方針を話し合った。

セフィはこの世にあってはならない物の召喚を魔術的に止める方法はないか考察したが止めるのは無理そうだと考えた。

エリスとステビアは救いたいと言うヘラだが、時計塔から下された討伐命令と反することになるかもしれない。本当にエリスがウォーロックを殺したのか？ エリスを救うならそれを解き明かさなければならない。

エルルとミヤは城の頂上にある避雷針じみたものを調べに行き、二人以外は城門から入って左側の方に向かった。

左側の中庭

左側の中庭には『祝・甘味様御降臨!』というお菓子のできた門がある。飾りつけのノリは学園祭。可愛いお菓子細工で飾られた舞台もある。六芒眼で魔力の流れを視ようとしたセフィが一時的に失明した。

イベント会場ではエリスが鼻歌を歌いながら楽しそうに飾りつけをしている。薔薇のクッキーはこのために焼いていたようだ。

慌てて隠れる冒険者たち。

エリスがくると振り向いて『……………ねえ、だあれ?だれかいるの?』と呼びかける。目の奥が光り髪が逆立つ。その場の全員が首筋に刃物が押しあたるかのようなプレッシャーに襲われる。しかし、何とかごまかすことができた。エリスは徹夜で作業をするつもりようだ。

左側の中庭の調査は諦めて全員で城門に戻ってくる。周囲が静まり返っているので、城門に潜んでいるクロウ、ディル、ハンス、レイナと情報を共有する。

ヘラはユリーカが連れてくる蝙蝠を通じてクエスタに、ウォーロックを殺した犯人が操られていた場合、元凶を倒せばいいのかと訊くが、クエスタは仮定の話はできない。クエスタは見たままを時計塔に伝え、時計塔がそれをどう判断するかは知らないと答えた。エティリスは先程見たエリスの様子について考察をした。何かに操られているようには見えなかった。狂っている、何かが壊れているという印象を受けた。昔の知り合いがいるならさぞ嘆いているだろうと、思った。

アリーヤは、『この世に存在してはならないもの』の召喚にウォーロックの死体が供物として使われるとしたら、そこに意味は考えられるかとクエスタに訊いたが、見当もつかないと言われた。

頂上

エルルとミヤは城の頂上の避雷針じみたものまで飛びあがった。

エルルはまるで避雷針から無数の腕が伸びてきて避雷針に引っ張り込まれそうになった。まるで『オイデオイデ』と声が聞こえてくるかのよう。引っ張り込まれたらロストするところだったが何とかエルルは耐えることができた。

影響をうけない（引っ張り込まれない）距離をとって屋根に座りながら感覚を思い出すエルル。魔力で吸引されるというより掴まれて引きずり込まれる感覚だった。

ミヤはメルティからコピーした竜眼で避雷針を視ようとするが、情報量が多すぎて精神にダメージを受けてしまった。（TPに軽減不能30ダメージ）脳が理解することを拒んでオーバーヒートしたような感じ。尖塔（避雷針）を特殊な方法で見ようとしたり近づこうとしたりと恐ろしいことが起きるようだ。形容しがたい何かがあるようだ。

エルルは尖塔にシンカー的な……もっと根源的な何かを感じた。

屋根に座っていたエルルはショートケーキにめり込んで身体中が生クリームまみれになってしまった。ぺろりと舐めたエルルは一時的にやる気が減退した。（二時間の間、全ての判定に-2）

再合流

城門に再合流する。

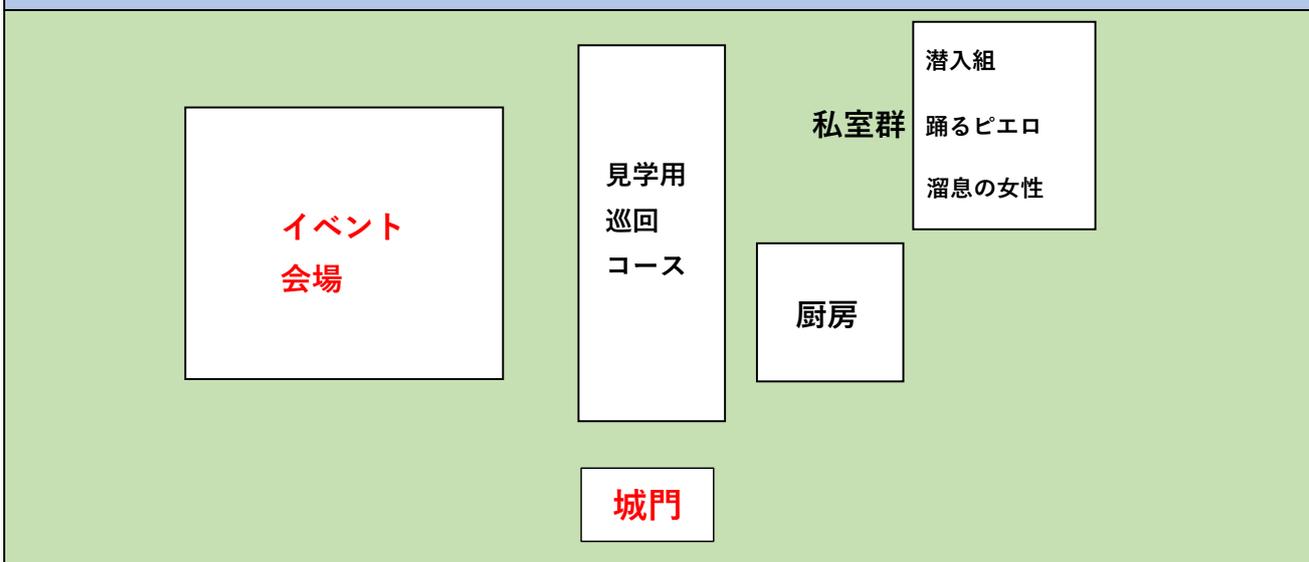
エルルは慌てて自室にシャワーを浴びに行った。

エティリスはチョコレートの扉の向こう側に行こうとしたが、そこは試験で使った厨房だった。次に女神像の方に行こうとしたが、そちらはイベント会場。エリスと鉢合わせになる可能性が高いから、そこも諦める。

ステビアの部屋に行こうとしたヘラだが、窓の外からならいけそうだが、屋内からだとなんか正しい部屋なのかいまいち分からない。聞き耳を立ててみるが室内は静か。近くの部屋で踊っているピエロが煩くてとてもまともに聞こえない。

ならばと、エティリスは踊っているピエロの正体でも看破しようと、風魔の技で変装・幻影を看破しようとした。ピエロはただの変態だったが……お菓子の城の真実が明らかになった。

お菓子の城の略図



お菓子の城の真実

幻影を看破したエティリス。

お菓子の城は、あたり一面、建物の形をしている、真っ赤な人間でできた構築物だった。

腕や脚、胴体、頭、うぞうぞと絡み合ったそれが、城の形を形成し、流動するように動いている。

それは遥か高いところまで続いており、上空に真っ赤な口が開いて、そこからどろどろと、赤い泥がお城に注がれ続け、口からは無数の腕が伸びて、空の遠く四方八方から吸い寄せられるように運ばれてくる人間の魂のようなものを捕まえて、孔の中に引きずり込んでいた。

発狂

お菓子の城の真実を看破してしまったエティリスは発狂こそ免れたものの、理性的な行動がとれなくなり一目散に洞窟めがけて逃げ出した。

一度洞窟に引き揚げようとしているディルたちは口を押えて逃走しているエティリスを見かけ取り押さえた。安全が確保された時点で発狂したエティリスは激しく取り乱す。一時間かけてディルがカウンセリングをして、エティリスはようやく正気を取り戻した。

エティリスとの情報共有で明かされるお菓子の城の真実の姿。

ユリーカはクエスタにアンチ・マナはシンカーに効果があるのかを確認。アンチ・マナは、マナ、つまり思念エネルギーを枯渇させる術。理論的にはアンチマナの影響下ではシンカーも力を失うはずだが、アンチ・マナもまた魔術の一つなので結局のところどちらの神秘の力が強いのかを争うことになる。効くとしても相当弱らせてからということになるだろうと、クエスタは回答した。

まだ城の中にいる潜入組はエティリスが戻らないと変な目を向けられるかもしれない。潜入組にもお菓子の城の真実の姿を伝えなければならない。そう思ってお菓子の城に戻ろうとするエティリス。

一人で帰していいのかをオラトリアに訊こうとしたディルだが神託を受け取ることができない。

デバイスフレクター関連またはシンカー関連でフィールドに歪みがあると神との交信が上手くいかなくなる。

クロウは一人で帰すことで生じるリスクはないと判断。

ただし、幻影を看破してしまったエティリスはもう真実の姿でしか見えないお菓子の城を見るたびに精神抵抗を要求されるリスクを持つ。このリスクは一人で帰ろうと、誰かについていってもらおうと変わることはない。

結局エティリスは目を閉じて発狂対策をしつつ、インビジブルエアで姿を消したセフィと一緒にお菓子の城へと戻った。

セフィとエティリス以外は洞窟に戻って朝を待つことにした。

パティシエル神殿の朝

お菓子の城に戻ったエティリスと姿を消したままのセフィは、エルル、ヘラ、ミヤと情報を共有する。

目隠し代わりに包帯を巻いたエティリスと、エルル、セフィ、ヘラ、ミヤはそれぞれ睡眠をとって回復に努めた。

翌日の朝、ピエロが**甘味様の召喚は15時になる**とふれてまわっている。エリスは昨日の徹夜が開けて眠っている。神官のほとんどもまだ眠っているようだ。動いているのは12~3人。

エルルとヘラは朝食を摂りに食堂に行った。ステビア以外の神官は全員ピエロ姿。男も女もいる。

ヘラはステビアと一緒にになった。

- ・神官の多くは近隣に集会に出かけて戻ってきたのは午前4時くらいでまだ寝ている。遠征に出ている者もいる。
- ・エリスは毎晩徹夜で明け方近くまで取り憑かれたように舞台を作っている。夜のエリスには怖くてステビアも声をかけられない。
- ・エリスは本来無邪気で優しく、甘いものを人に食べさせることしか考えていない良い子。
- ・（甘味様の使者が来てから）しばらくはお菓子屋の真似事のようなことをしていた。見向きもされなかったがエリスも楽しそうでステビアもそれで良かった。たった二ヶ月でこうなった。自分たちはどうなるのか（不安だ）。
- ・**サッカリンが来るまでもどこかおかしかったが、サッカリンが来てから余計にひどくなった。**
- ・ヘラにこのままでもいいのかと言われたステビアは黙り込んだ。肯定することはできなさそう。
- ・ヘラに揺さぶりをかけられたステビアだが、この状況はどうしようもないとヘラに答える。
- ・**ステビアはかなり動揺しているものの決定的な危機感を抱くまでには至っていない。何かパズルのピースが足りない様子。**

エルルはピエロと会話をする。

- ・**サッカリンが戻ってくるのは（召喚の）儀式ギリギリになる。**
- ・ピエロに朝食を薦められる。ピエロも神官らしい。
- ・エルルは別にピエロの格好をしなくても良いらしい。
- ・**どうしてピエロ姿でなくてはならないか、エリスがそう望んだからなのか、よく覚えていない感じ。**
- ・甘味様に使えるピエロに名前は必要ないらしい。
- ・エリスからは毎日指導がある。お菓子という天啓を得られる。

ステビアの協力を得るためには、神に関わることについて行き倒れ（テレサと思われる）から情報を得る必要があるようだ。ステビアから今日は儀式までは外出しても良いと言われるヘラ。**時間の余裕はあと8時間ほど。**

ヘラはエティリスから食材を借りてテレサを釣るためのクッキーを作り始める。

エティリスとセフィは街の探索に入るためにいったん洞窟に戻る。洞窟と神殿の間は30分ほどの距離。

クッキーを完成させたヘラとミヤもまた洞窟へと戻る。エルルはさらなる情報収集を狙って神殿内に残った。

洞窟の朝

セフィは洞窟からざっと街を見回してショコラッテ神殿付近の地図を作製した。

アリーヤは城にウォーロックの死体について情報を収集に神殿に潜入。

ハンスは中央広場から南の区画を、クロウは中央広場から南東を、セフィは中央広場から北西の道を探索に出かける。合流したヘラはレイナと一緒に広場に行く予定。ディルはユリーカの護衛をする予定。

ディルとユリーカとエティリスはそれぞれJとクエスタと会話をする。

・Jはショコラッテ付近の情報はまだ収集していないので、テレサの行方は分からない。テレサについては街で聞き込みをすれば分かるだろう。

・ユリーカはクエスタに召喚されるものを中央広場に誘引することを依頼するが交渉材料がないと断られる。

・ユリーカはJに召喚されるものの足止めになる罠の設置を依頼するが、罠をかける相手が不明では有効な罠を仕掛けることはできないと断られる。召喚されたものがお菓子の城に憑依して動き出すというユリーカの仮定だがそもそも足止めできる相手なのかと一蹴された。

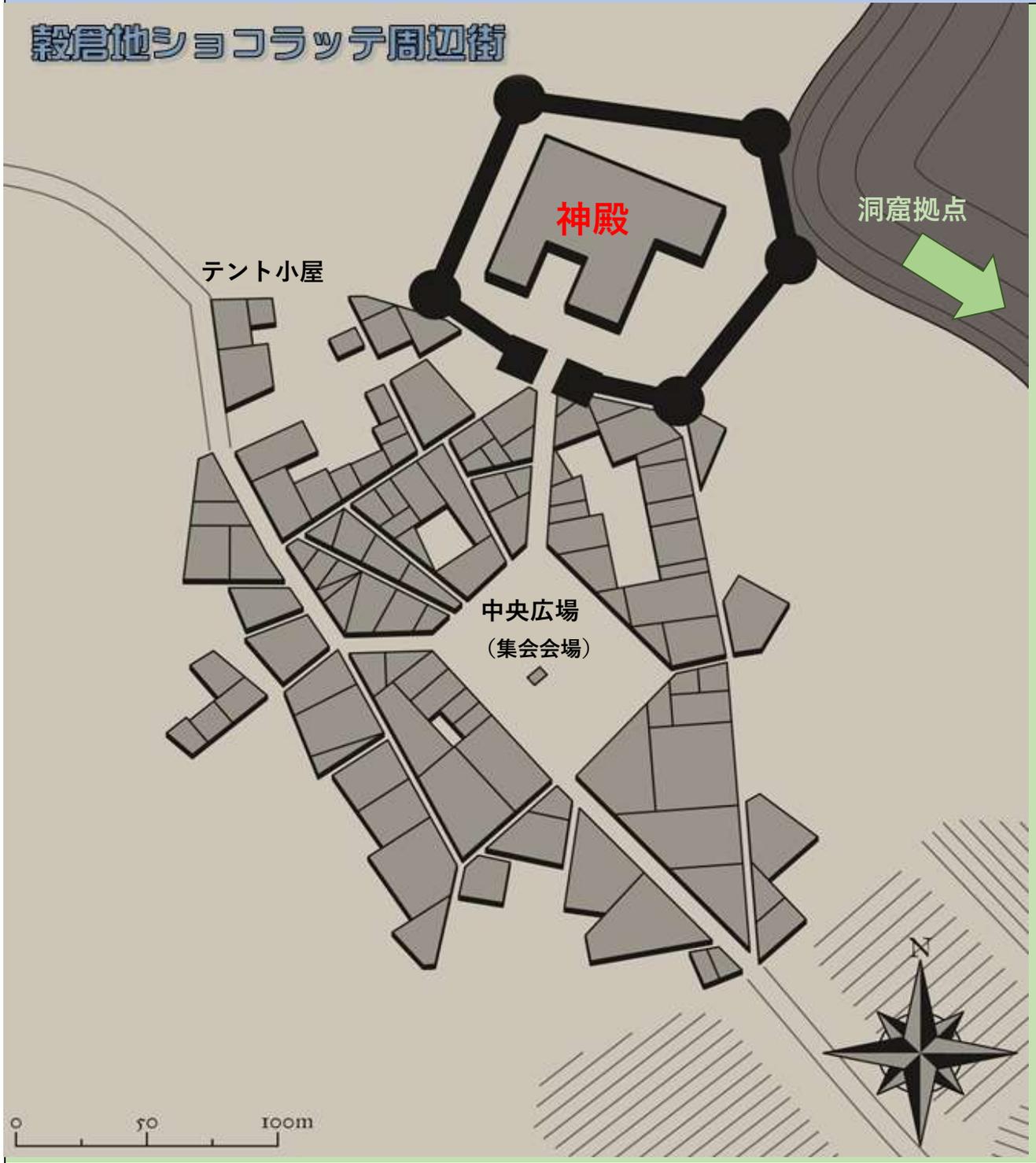
・エティリスはクエスタが召喚されるものを『この世にあってはならないもの』と発言したところに触れて、召喚されるものがある程度想定（強大なシンカー？）できるのかと訊いた。クエスタは「壊れた術式（バグ）」がそのまま形になって現れると表現した。シンカーであっても暗黒神であっても本来『この世にあってはならないもの』ではない。ちゃんとした存在ですらないものが生み出される気配がする。見てみないことにはどのような存在になるのか分からないと回答した。

・ディルはJとクエスタにパティシエル神殿がお菓子の城に見えるのかと訊いた。二人ともそうは見えないようだった。Jはその類のものは見慣れているようだ。（エティリスと同じものが見えているかどうかは不明）

・エティリスからアインスやヘロディアの名前を出されたクエスタはアインスがどのような存在なのか知らないし関連性の検証もできないと言い、ホオヅキの冒険者以上にこの件について知っている者はいないと回答した。

・ディルはクエスタにパティシエル神殿は魔法的な幻覚なのかと質問。クエスタは、魔法的な幻覚というよりも、**パティシエル神殿を『お菓子の城だと強く思い込んでいる者がいる。意思が非常に強い、少し頭のイっちゃった人がいれば、お菓子の城は実現する』**と言った。逆説的にたった一人の思念の思考性で荒唐無稽なことも実現できるくらいの思念エネルギーが蓄積されている。疑似的な願望器、禁断の魔筆に相当するものになっていると回答した。

穀倉地チョコレート周辺街



テレサを探せ

全員で街に出ていったん集合し、テレサを探すことになった。

街にはダークエルフや人間など。たまにオーガもいる。人間であっても暗黒神官な場合があるのでいきなり敵視はされないようだ。リアナに神託を仰ぐエルフだったがテキトーな神託しか下りてこない。

アリーヤとエルルは神殿の方へと情報を収集に行った。

広場で聞き込みをするレイナはダークエルフからテレサの有力情報を得た。広場で行き倒れていたので林檎を与えて仕事の世話をしやったらしい。今は街の北西のテント小屋で皮をなめしているらしい。

その情報を元にクロウ、セフィ、ヘラ、レイナで北西のテント小屋に向かう。

テント小屋は悪臭がたちこめて臭いに敏感な種族は全ての行動に-1のペナルティが付いた。

牛、羊、豚、人間、エルフなどが皮を剥がれてぶら下がっている。グロい。

ゴブリンが鳩の糞を集めて皮を洗うのに利用している。

ゴブリンに話しかけると身振りで奥へ行けと言われ、行ってみると巨頭婆と裸人、裸道テルアキが言い争っている。

巨頭婆からはそれらしい人は奥にいると言われるが、美しい乳首を永遠に残したいという裸人が邪魔になる。

裸人との実りのない会話の末に戦闘となった。

1ターン目

異常な敏捷性を誇る裸人に戦術学で先手を取るセフィ。

セフィはダブルキャストを宣言し情熱のワルツを舞う。クロウは活性を宣言し士道覚悟の心構え。

一瞬にして裸人の横にテレポートしたセフィが裸人を氷像にし、ヘラはテント小屋の外に出る。クロウが氷像を蹴ってテント小屋の外に出そうとするが、蹴りの衝撃で氷が割れてしまう。

テント小屋の外に出た裸人はあたり構わず白濁液をぶちまけたが、全員何とかかわすことができた。

2ターン目

セフィはダブルキャストを宣言する。

ヘラがピュプノクラウドで裸人を眠らせ、セフィが魔法剣ブレイクで裸人を石化させ、戦闘に勝利した。

裸道テルアキは謎の祝福の中、天に召された。

テレサを身請け

巨頭婆から裸人を追い払ってくれた礼に特別に奥へと通してもらったヘラ。

テレサは奥の縫製室で針子をさせられていた。他の針子たちも売られてきて、売価の三倍分働くまでは強制労働らしい。

テレサは林檎をくれたダークエルフに連れられてきてから閉じ込められて針子をさせられていたようだ。臭いしご飯も美味しくないらしい。

ヘラがクッキーを与えると飛びついたが、やはり周囲の悪臭はどうにもならない。

ヘラはテレサを1200セレンで身請けして、巨頭婆の元から救出した。

パティシエル神殿の探索

神殿は人通りはほとんどなく関係者以外立ち入り禁止になっている。

エルルは神殿に戻り、アリーヤは神殿へ侵入した。

潜入したアリーヤは神殿内が不気味に静まり返っているのを見るが中庭でピエロに発見されて追い返された。

エリスは甘味様降臨会場で作業中と聞いて会場に来るとまるで結婚式場のような飾り付けがされている

ステージ上で飾り付け作業中のエリスは目も血走っていて鬼気迫る様子。近寄ったら何をされるか分からない。ステビアも他の神官も声がかけられない。

ステビアもどうなのかよく分からないがエリスには声をかけないようにと言われる。

エリスは色々とお菓子の飾り付けをしているようだ。コトリバコに取り憑かれた人が箱を開けようとしているときにこのような表情になるらしいが……。

エルルはエリスが甘味様の使いが現れた時に何かもらわなかったかとステビアに訊いたがそういったものはないようだ。それならエリスの部屋はどこかとエルルに訊かれ、**ステビアはエリスの部屋を知らないことに初めて気づく**。しかし、エリスの部屋を探してみようとのエルルの申し出は、エリスが何かしないか心配だから見ていると断られた。

エルルは城内でできることはなさそうだと判断して、洞窟へと戻った。

参考：コトリバコ（読んだ人で体調悪化の報告有り。読むのは自己責任）

<https://xn--u9jv84l7ea468b.com/kaidan/4wa.html>

テレサに訊く（その1）

テレサを回収したヘラたちは広場で他の街探索組と合流し、洞窟へと戻った。さすがのテレサも今は食欲がない。

洞窟への道中からテレサへの質問が始まった。**テレサはお菓子の城（パティシエル神殿）を特異点と呼んだ。**

- ・ **特異点とは創生術または交霊術で自分が何かを召喚するときに設置する一種の巨大な魔術装置を指す。**
- ・ **ショコラッテでの特異点は蠢いている地獄の窯（お菓子の城）である。**
- ・ **何者かの召喚を止めるのは、少なくともテレサー人では不可能。**
- ・ **特異点は願望器を完成させるための巨大な魔術装置。地獄の窯（赤い部屋）とこの世（現世）との間を直接接続し、そこから吸い上げた力に対し、強力な思念を照射することで、原始魔女苔（この世界）が本来持っていた【創生】を完成させる。これが完成すれば【神】を創造することが可能だろう。**
- ・ **既に思念（各地から集められた甘味様を崇拝する思念）も、直通トンネル（お菓子の城上空に開いた赤い穴）も、依り代（ウォーロックの死体を使って作成するホワイトシンカー）も、造物主（エリス・リトル）も完成同然の状態になっているため召喚は止めようがない。（ホワイトシンカーのみ未完成）**
- ・ **お菓子の城の上空は【赤い部屋】に繋がっている。赤い部屋とは、地獄の窯、魂の牢獄を指す。【この世界】に人が来てから死者は全て魂を強制的にそこに保管される。シンカーは赤い部屋に保管された魂を掬い上げ、赤い泥によって再現されたもの。**
- ・ **赤い部屋に魂が繋ぎ止められている限り、シンカーは何度倒しても湧き出てくる。**
- ・ **赤い部屋とこの世（現世）を繋ぐ穴を開くことができるのは、パレスのドラゴンロード（竜帝）、総力を結集したアンブロシア占星団、魔界貴族の王アルク・ギュラ、アンデッドの粹カーミラ・スカーレット、天秤の騎士だけであり、その中でショコラッテに穴を開く動機が想定できるのは天秤の騎士アインスだけである。アインスはこの世界が混乱することを、人にやり直しをさせてその人が破滅することを、見て喜ぶ習性がある。ただし、確証はない。**
- ・ **今回の事件での狙いは『神を創造する実験』なのかもしれない。**
- ・ **アインスは、前の世界が滅びた時（500年前）に確かに死んだはずだった。ゼロであるウォーロックのラルフ・カーライルを筆頭とする天秤の騎士は全て赤い部屋の前で殺されたからである。**
- ・ **天秤の騎士はシンカーに敗れたはずだったにもかかわらず、アインスは世界各地にたびたび姿を現し噂になり続けた。しかし、そのアインスは生前のアインスとは全く人格が変わっていた。理由は不明。**
- ・ **しかし、実際のところアインスがしようとしていることはテレサにも分からない。**
- ・ **願望器（お菓子の城）を作ることは、材料さえ揃えることができればそう難しいことではない。ただし、材料を揃えるのが非常に困難なため、願望器が完成することは本来はあり得ない。**
- ・ **およそ数万人の人が、全く同時に全く同じことを全く同じように本当のことだと信じることで思念の照射（一種の光の照射）ができる。これをデバイスリフレクターに入射すると、デバイスリフレクターはそれを集積したうえで反射する。反射した思念波を受け止める資質のある何かに照射することで思念波による虚像が浮かび上がる。**



テレサに訊く (その2)

・写真で言えば、思念波は光、デバイスリフレクターはレンズ、光を受け止める依り代が薬液につけられた台紙（フィルム）となる。

・パティシエル神殿は、以下の手順を踏んでいる。

- (1) 甘味のお茶会を開いて集まった人々から思念エネルギーを強奪
- (2) 集まった思念に指向性を持たせることのできるエリスを祭り上げて、指向性を持たせた思念をデバイスリフレクターに照射
- (3) デバイスリフレクターは赤い部屋へのゲートを開き、この世界で一番原始的な形をしているデバイスリフレクターを呼び出す
- (4) ホワイトの死体を利用して、ホワイトシンカーを作り、それをフィルム（依り代）にして、デバイスリフレクターが反射した思念を当てる
- (5) 【甘味様】が誕生する

・エリスがウォーロックを倒した絡繰りは、集まった思念エネルギーを使って、エリスが『こいつの首はへし折れる』と信じることで指向性を持たせたことによる。『思念の暴力』とテレサは表現した。

・思念の中に少しでも不純物が混じったら、多少半端な不純物が混じったものが出来上がるだろう。

・現在のエリスの状態は赤い部屋に近づきすぎていることによる狂気だろう。思念エネルギーの射出機にされて赤い部屋に思念を送り続けているのだから正気でいられるはずがない。

・エリス・リトールはカメラのストロボのように甘味様を呼び出した後は廃人となり使い捨てられる。

・テレサはそんなイレギュラーを止められる方法を知っている者がいるとすればエリに属する古の天使たちだという。彼女たちであればテレサよりも高次元の解決方法を知っていると思われる。一番近くでそれに当てはまるのは剣王国の守護天使たちだろう。彼女たちが寝返ったのはパティシエルに洗脳されたのではなく何か事情があるかもしれないと言った。

・天使たちはショコラッテに光の勢力が近づこうとすると迎撃する。ホオヅキの冒険者たちは姿を変えて接近したから天使たちの警戒をすり抜けることができたのだろう。

アリーヤ、エルル、クロウ、セフィ、ディル、ヘラ、レイナで天使たちを誘引するために洞窟から出て、分かりやすく光の勢力であることを示すために神聖祈祷をすることになった。

天馬騎士団と光の軍勢

洞窟から200mほど離れて、ディルが空に向かってホーリーボールを打ち上げると空の向こうからペガサスに乗った天使の軍勢がやってきた。その数は百騎。騎士団長ラファエルに用事があると告げると、ラファエルとその副官エゼキエルとの会話が始まった。フォルトゥナはラファエルを見ると逆らえなくなった。人造天使は天使長に逆らうことができないようだ。もし、天使の軍勢が敵対状態で現れたなら即座に裏切っていただろう。

・ラファエルより、しばらくすればショコラッテは地獄の窯となるから逃げることを薦められる。ラファエルたちは世界の敵と戦うつもりらしい。しかし、勝ち目は無いという。アパカルガに猛威が襲いかかるのを少しでも遅らせたいという。

・現れる【神】を倒す方法は分かるが、それを実現する方法がない。

・ホオヅキの冒険者のことを信じられないラファエルだが副官のエゼキエルが出てきて、話だけでも聞くようにと諫めた。

・神を倒すには天秤の錘（赤い部屋か？）から魂を救い出す方法が必要らしい。

・エゼキエルの認識では甘味様の召喚は願望器の作成儀式。

・神を倒すためには思念の照射を受け止める依り代である唯一の存在ホワイトシンカーを破壊する必要がある。しかし、シンカーであるために倒しても倒してもすぐに復活してしまう。ウォーロックの遺体自体はホワイトシンカーを作り出す呼び水にすぎないので、それほど重要ではない。

・魂が赤い部屋に閉じ込められている以上はウォーロックを復活させることはできない。有史以来赤い部屋から魂を取り戻したという記録がない。

・もし、赤い部屋から魂を取り戻してシンカーから核を奪うことができるなら【神】に勝つことは可能だろう。

ここで、一行の中で赤い部屋から魂を取り戻した唯一の実例をディルが思い出した。（ザブナルク遺跡群シナリオより。不参加なので詳細は知りませーん！）

ソノフェン遺跡群でザブナルクの亡霊と呼ばれるユラ・シグマが英雄ジェイスの遺品を求めて放浪していた。ホオヅキの冒険者たちは遺跡でジェイスの手記を発見した。その手記によるとジェイスはシンカーから人間を救い出すことを試行錯誤の末に成功させたという。ユラ・シグマは気が付くと血まみれのジェイスの前に立っていてそれ以来年を取らなくなったらしいが、蘇生の経緯までは覚えていなかった。ユラこそがシンカーから救い出された存在ではないかと言われたがしよせんは憶測の話。詳しい話はジェイス本人に聞く必要がある。そこで、一行はジェイスの手記の提出先であるテレサに話を聞きに天使たちを伴って洞窟へと戻ったのだった。

じえいのしょうたい (棒)

テレサにジェイスについて聞きに戻った冒険者たちだったが、ジェイスはすぐそばにいるという。Jこそがジェイス本人だった。

(棒)

ユラ・シグマを救った時のことを聞きたいとカマをかける一行。ヘラが天使たちとのやり取りの内容をジェイスに話し、シンカーから魂を救い出す方法が必要になった経緯を説明する。

・ジェイスは確かにシンカーから魂を救い出す方法はあると言った。シンカーにまつわるマナを枯渇させることができれば、それが可能だという。ただし、超えるべき障害が三つある。

- (1) マナを枯渇させる神秘がシンカーの神秘に打ち勝つ。(シンカーを瀕死にすれば可能)
- (2) マナを枯渇させた時に術者がシンカーに触れる位置にいること。(術者が瀕死にならず無事である必要がある)
- (3) マナを枯渇させた瞬間に泥の中に手を突っ込んで物理的に引きずり出すこと。(引っ張り出すのもアンチ・マナの術者であることが望ましい)

アンチ・マナを使うユリーカをディルのカバーリングで守ることはできそうにない。

ラファエルが与える加護は回復や防御力の向上であり、直接護衛することはできない。

テレサは一度だけ命を守る加護を使うことができる。

ジェイスの持つ魔鉱石でもアンチ・マナと同じことをできる可能性はあるが、十分な純度の確保できる鉱脈が見つかっていない。

アンチ・マナを使える術者(ユリーカ)が頑張るほかはない。

また、ジェイスは以下を指摘した。

- (1) 甘味様を一度は撃退する必要がある
- (2) ウォーロックをも倒すエリス・リトールへの対処が必要となる

さらに、クエスタは甘味様を召喚する前にホワイトシンカーを倒してしまうと場に集まった思念エネルギーが暴走してあたり一帯を壊滅させると指摘する。甘味様を一度降臨させてしまった方がまだ対処しやすいようだ。蓄積された思念エネルギーを漏洩させてエネルギー不足にする方法は焼け石に水で効果が期待できない。

もし、巻き戻しが発生するとしたら、正気でないエリスが狙われる可能性は低い。アインスは自らの意思で破滅に向かう人間を選ぶという。巻き戻しを防ぐためにはステビアが決意をもって問題の解決にあたる必要がある。

ジェイスは四つのグループが必要になると言った。

- ◆1 エリス・リトールとその取り巻きに対処するグループ
- ◆2 甘味様に打撃を与えるグループ
- ◆3 ホワイトシンカーを瀕死に追い込むグループ
- ◆4 アンチ・マナを使うグループ

残された時間は3時間。ラファエルたち天使は洞窟近くに待機。戦闘時に協力を得ることができる。

ディルはエリスを正気に戻す方法がないかをテレサに訊くが、方法は不明で無理ではないかと思えて早く気絶させるくらいしかできることはないという回答だった。

エティリスはクエスタに、エリスが思念を純粋なものに精錬するのでなければ、ショコラッテ付近の霊体を無条件に吸収する特異点が既に雑音(ノイズ)を拾っているのではないかと指摘する。クエスタは大きな影響はないと思うが、何か思わせぶりなことを言いかけて、さらなるレイナの追及を誤魔化した。

ここで、クエスタが自分のかけている眼鏡を貸してくれた。それは幻想殺しの眼鏡だった。装備しておけばどんな幻影にも、どんな幻想にも影響されず、魔眼や呪いもすべて無効化されるという。これをステビアにかけさせれば説得が容易になるだろう。ステビアがエティリスのように発狂しないかどうかはステビアの芯の強さに期待するしかない。

【幻想殺し】あらゆる幻想を無効化し、可視化すると言われている眼鏡。とある魔術師の一門によって厳重に管理されている。装備していると幻影、幻想の類が全て無効化され、真実の姿を見ることができる。また、装備中はあらゆる思念の投射、また思念の反映を遮断する。

レイナは思念を照射するときに方向性がなかった場合はどうなるのかをクエスタに訊くと、エネルギーが暴走してEGGの燃料タンクに穴が開いて引火するような状態だと語った。

眼鏡をはずしたクエスタの目には、パティシエル神殿はお菓子の城には見えないようだ。

ミヤはテレサに【神】を創造することは今のデバイスリフレクターでも可能なかと訊いた。この世界の【神】は思念体なので上位の魔族やドラゴンたちと本質的に違うものではなく、グレートワンズのような巨大なものは無理でも小規模な地方信仰程度の神を作ることなら不可能ではないと答えた。一度赤い部屋を破壊すれば今のデバイスリフレクターは同じものを再生することができないというのは今のところ間違いないようだ。

ハンスとヘラとディルとアリーヤとセフィとフォルトゥナはイブを服用。ヘラはクエスタの眼鏡を受け取り、ステビア用のイブも持った。(見落としがなければ未服用はクロウとミヤとユリーカとレイナ)

異変の予兆

ヘラとミヤとエティリスは時間経過により失っていた神の加護を取り戻した。

ヘラは眼鏡を使って、ミヤはホムンクルスの目を使って、それぞれ神殿の本当の姿を見た。眼鏡を使うとより詳細な様子が見えた。それは深淵を覗き込むことと同じだった。上空の裂け目から流れ出たあない部屋の内臓物がお城の形に積みあがっている。お菓子の城でありパティシエル神殿である【それ】は赤い部屋の中身そのものだった。赤い部屋で苦しむ者の怨嗟が聞こえてくるかのよう。事前情報がある分ショックが少なかったため、二人とも発狂を免れた。エティリスも再度の発狂は免れた。

そして、ヘラとミヤとエティリスは神殿に戻った。エルルから聞いていた広場に行くとエリスの様子がさらにおかしくなってステビアががくがく震えている。ピエロたちは不気味にへらへらしながら踊っている。

幻想殺しの眼鏡は幻影だけでなく幻想も看破する。そのため、眼鏡を使うとピエロたちは人間でなく人間の皮の中に赤い泥が詰まったものだと分かってしまう。エリスの周りには無数の人体が絡みつき、うごうごとうごめいて体中にまわりついている。すでに半身が赤い部屋に飲み込まれている。エリスの顔ももはや人間のものではない。夢中で舞台を完成させようと作業をしているエリスの手元は速すぎて捉えきれない。

ミヤとエティリスはヘラとステビアの周囲に人が近づかないようにして、怯えるステビアとヘラは会話をする。

まずはステビアを落ち着かせようとイブを飲ませて、ヘラはエリスの身に起きてること、この城の正体、そしてエリスの意図とは異なる結果が待っている儀式について説明する。意を決したステビアは眼鏡を貸して欲しいとヘラに言い、ヘラは眼鏡を貸した。

辺りを眺めてからエリスを見たステビア。一瞬ひきつった声をあげるがエリスに近づいていき激昂する。

ステビア『許せない、みんなで寄ってたかって、エリスをこんな目に合わせて。甘味の使者か……サッカリン！！絶対に殺してやる！！』

エリス『うるさい、首でももげて静かにシテナヨォオオオ』

手を止めてステビアをじろりと見つめたエリスはステビアに向かって首もげろと幻想を飛ばす。しかし、眼鏡の力によりステビアはその幻想から守られた。

エリス『はぁ、もげろよ、もげろ！！』

もうステビアのことすら分からずに、イライラしたエリスが幻想を飛ばしてくる。とりあえずステビアを連れてその場から退散したヘラとミヤとエティリス。エリスはそれを追わずに作業に戻る。

エリスを助ける方法はないのかと、何をすればいいのかと言うステビアにヘラは現状の作戦案を伝えた。ステビアは全面的に協力を申し出てくれた。洞窟へと移動すると30分かかってしまうので、洞窟との間にコウモリを使った通信をする。

作戦検討

洞窟でやっておくべき準備はもう残っていないさそう。

ステビアはメイガス5レベル（ノーブル）で荒事はあまり得意ではないようだ。アインスの出身なので剣王国の装備で化けることはできない。事情についての説明はできるものの、戦力としてはあまり期待することができないようだ。

しかし、ステビアは神殿の事情には詳しい。パティシエル神官に言うことを聞かせることのできる鈴を持っていた。ラカントは剣王国出身で腕に覚えがあるようだ。ステビアは眼鏡の守護を受けながらエリスを抑えることを約束してくれた。眼鏡を装備していればエリスの力からは身を守ることができる。装備者以外には効くので、あまりエリスに人員を割かないほうがよさそう。ステビアにエリスの能力を確認したら、思念がなければエリスも暴力に使える力は持っていないようだ。

ラファエルたち天馬騎士団も局面に応じて援護してくれる。

エティリスは北海の高級真珠20珠を対価にクエスタに心と言う名の弓を最大出力で一発売ってくれるように依頼し、契約を成立させた。発射した場合に消費するテオクリスタルもエティリスが補填する契約となる。

エリスの取り巻きのピエロたちはシンカーとなって襲ってくると想定される。

クエスタの読みでは、甘味様は物理攻撃（TPダメージもつく）をしてくるようだ。甘味様には対物理、ホワイトシンカー相手には対魔法の備えがあると良さそう。

ジェイスにエリスの取り巻きになると思われる駆逐型シンカーを黙らせる良案がないかと訊くと、レベル6以下の人員だけで行けば殲滅型シンカーが現れないので比較的安全に戦うことができるとアドバイスを受けた。ジェイスが援護すると殲滅型が出るので、追加料金なしでリオネルを貸してくれることになった。

懸案のサッカリンについてステビアに外見を確認したら、神秘的の国出身を名乗りヴェールで口元を隠し古い師風のシースルーの衣装を着ているらしい。サッカリンが近づいてきたら分かるように天馬騎士団に早期警戒をお願いしようと思っている。（まだ依頼していない）

戦闘は三つのラウンドに分かれ、処理は上から順にしていくが実質同時発生するので、一人が二つ以上のラウンドに参加することはできない。天馬騎士団の援護は三つのラウンドとも受けることができる。

人員配置の原案を仮作成。

★ラウンド1 エリスとその取り巻き（駆逐型シンカー想定）の排除

ハンス、ステビア、リオネル、（天馬騎士団）

結果的にはレベルキャップしてラウンド1に参戦

★ラウンド2 甘味様退治

エルル、クロウ、セフィ（フォルトゥナ）、ヘラ、レイナ、ラカント、（天馬騎士団）

★ラウンド3 ホワイトシンカー退治及びホワイト救出

アリーヤ、ディル、ミヤ、ユリーカ、エティリス、（クエスタ援護射撃）、（天馬騎士団）

フォルトゥナは自分が精神汚染されてしまった場合はラファエルたちに上位者権限で押さえつけて欲しいとお願いをした。

エティリスは天馬騎士団にサッカリンが神殿に接近してこないか早期警戒を依頼した。

エルルとユリーカとレイナもイブを服用。精神抵抗に自信のあるミヤとクロウ以外のホオヅキの冒険者は全員イブを服用したことになる。

ミヤはまだ見えていないものを見るために眼鏡を借りて神殿を見た。精神抵抗には成功。

ヘラは戦場になりそうな広場と舞台を確認する。広場にも舞台にも看板などはあるが遮蔽物はない。

広場の広さは15m×20m、舞台は広場よりも1m高い位置にあり、広さは5m×15mだった。

甘味様を降臨させた後、エリスの思念の力に変化があるかどうかはクエスタにも分からないようだ。（念力のようなものらしい）まだ決戦までにやることは残っているようだ。

召集の鐘

ハンスはリオネルの能力を確認。レベル5メイガス（ノブール）でプリースト（神道）だった。

ステビアは教祖には会ったことがない。エリスからの伝聞でしか知らないようだ。サッカリンはそろそろ到着するはずだがまだ所在は分からない。

ステビアの召集の鐘の効果を測りかねてしまうヘラとミヤとエティリス。

ラカントが現れるのかピエロシンカーが現れるのかと不安になる一行。

ラカントの人となりを知ると、昔は盗賊だったがエリスに出会ってからお菓子職人を志し、元々素質があったのか僅か1ヶ月でエリスの作るお菓子は大体作れるようになった純粋に甘味を愛する人らしい。

単なるアイテムとしてではなく、神学の知識でもう一度召集の鐘を見てみたヘラは、自分の宗派の奇跡【ジハード】に近い奇跡を起こすものだと悟る。ステビアにどこで手に入れたのか訊いてみると、剣王国にやってきてからしばらくしてからのものであった。定期的に教祖（アインズ）と別れた後で、サッカリンと出会う半年以上前。いつの間にかエリスが持っていたらしい。不思議とエリスとステビアには使い方がすぐに分かったようだ。

直感的にエルルが鑑定すればわかりそうだったヘラは召集の鐘をエルルに見せた。エルルはそれを正しく理解した。純粋な暗黒神の祝福を感じる。少なくともお菓子の城のような禍々しさは感じない。力は甘味様よりはずっと弱いのが、本当の意味で【本物の暗黒神】の力を感じ、心が暖かくなりダークプリーストとして敬意を表したくなるものだった。しかし、エルルは自分がその鐘を鳴らす資格はないと悟る。やはりステビアでないと使えないようだ。

【ベル・オブ・パティシエル】古代暗黒文字によってさまざまな祝福の祝詞が刻まれたベル。その祝詞は使用者に祝福を与えるものであり、このベルを鳴らす時、選ばれた清廉なるパティシエルの使徒が招聘される。パティシエルの使徒達は一か所に召集され、その指導者の呼びかけに回答するとき、すべての技能のレベルが3上昇する。呼びかけの動機は清廉なる甘味の維持のためでなければならない。呼ばれる使徒は清廉に甘味を愛するものでなければならない。

そして、ステビアはベル・オブ・パティシエルを高く掲げて鳴らした。どこからともなく暗黒語の祝詞が聞こえてくる。

——汝、豊穡の中に於いて甘味を尊び、汝、交わりの中に於いて甘味を愛せよ。

——其は祝福の子。 蜜は口に甘く、その心を平らかにする。

——汝、豊穡に感謝せよ。 甘味は豊穡の最たるもの。 汝の口に甘い物は神の祝福と恵みである。

——汝、甘味を愛し、豊穡に感謝せよ。 汝、甘味を用い、平和を実現せよ。

——我は古の神、名を失った豊穡の神。しかし、其が我を呼ぶなら、我もまたその名を語ろう。

——我が名は豊穡の神パティシエル。

涼やかな音が鳴り響き、辺りが光に包まれ、以前に出会ったラカントを筆頭に、二十人ほどのピエロが現れた。このピエロたちはまっとうな人間ばかりだった。全員がパティシエルの正しい神官ということになる。ラカントたちはステビアに礼を尽くす。

状況が分からないラカントにステビアが今回の経緯を説明する。いつのまにかラカントの上には天使が浮いている。

事情を聞いたラカントは、自らがかつて剣王国で恐れられた大盗賊ラカンであったことを明かし、それまで満たされなかった心がエリスのお菓子で満たされたことを告白。ラカンをはじめとしたパティシエル神官たちはエリスを救うために戦うことを約束した。

今回の戦いでは装備やベルの効果によりラカントはレベル15のシーフ相当に、パティシエル神官たちもレベル8の手駒として使えるようになった。

ラカントの上に浮いている天使に話しかけると、名も無い豊饒神の信仰を守る天使らしい。昔は甘味を尊ぶ豊饒神の信仰があったのだが、信仰が忘れられ豊饒神も天使も名前を喪ったという。ところが最近になって甘味を貴ぶ信仰を感じ、名も無い神に祈る二人の信仰者（エリスとステビア）に呼び鈴を授けたらしい。名も無い豊饒神は与えられたパティシエルという名を気に入っているようだ。

世界に不正を働き、信仰によらない歪んだ何かが生み出されるのを、貴い信仰を持つ使徒が失われようとしていることに豊饒神パティシエルは嘆いている。天使にエリスの心を救って欲しいと願うと、真心をもって呼びかけ現実を見せるのが一番良いと言われた。エリスの心の中に歪んだ存在【甘味様】を拒絶する心が少しでも生まれれば呪縛は解けるだろうと天使は言った。

ステビアはエリスを抑えることはするが、周りのことはできないという。どうすればいいかと迷っている。

名前が欲しいという天使にエルルが【シュガー】と名を与えた。

全員がシュガーから祝福を受け【致死攻撃を一度だけ無効化する】加護を受けた。

テレサも全員を祝福し、【出目1,1を一度だけ6,6に変換する】加護を受けた。

クエストも全員に力を与え【スロット消費無しに一度だけプロテクションフロムアイギスを使える】ようになった。効果は本シナリオ中のみ。

あと、やり残したことはラファエルたちを【救出する】こと。一行は洞窟へと移動した。

天使長

ラファエルのところに行くと、ラファエルも新たな天使の気配に気づく。

ヘラが状況を説明すると、シュガーのように使命を見失って放浪している天使はけっこうたくさん存在するらしい。会ったら優しくして欲しいとラファエルに頼まれる。

ラファエルは戦いが終わった後のことは考えていなかったが、大々的に国を裏切り王国騎士団に刃を向けたいま、帰るところは無いという。ファリスが待っていると言われても慰めだと信じないラファエル。

ラファエルたちが国を裏切ったのは、甘いものが目的ではなかった。ラファエルたちが守りたかったのは大切な人たちだった。立場を弁えるなら王都まで破滅が迫ってくるまで、たとえ大損害が出るとしても王都で鎮座していればよかった。

立場上、国や神殿を守らなければならない天使たちだが、本当に守りたいのは守りたいと思った人々。今回はきっかけに過ぎないが自分の在り方に嘘を付けなくなった。王都の守護を放棄してでも、守りたい人たちを守りたかったというラファエル。

ヘラは、その気持ちをファリスに伝えれば良いと、このままいなくなったらファリスたち天使が守りたい人々が傷ついてしまうと言う。

ラファエルは我儘を通してしまった自分たちが気持ちを伝えてもどうしようもないと答えた。天使が職務を放棄して好き勝手にふるまったら、他の職務に忠実な天使たちに評判に瑕がつく。敵に操られて乱心したとすれば、分かりやすいし他の天使の評判も守ることができる。自分たちだけが裏切り者の汚名を着ることが一番良い。綺麗に討ち死にすれば丸く収まるはずだったとまで言った。しかし、生き残ってしまったら身の振り方に困ると愚痴をこぼす。エゼキエルも沈黙したまま。

生き残ったらその時に考えるというラファエルにヘラは死にたかったとどこかで思っている心があれば最後の力は出ないと諭す。ラファエルは消えるにしても一言挨拶をしてからにしようと言った。

エティリスは本当の気持ちを伝えれば良い、天使の評判は天馬騎士団が裏切ったことで落ちるし、評判は天使それぞれが勝ち取るものだ、それよりも互いの気持ちを裏切っていることの方がよほど問題だとラファエルに詰め寄った。そこまで自分勝手にはなれないというラファエルに、自分勝手に良いとさらに言ってから、エティリスは言い過ぎたと謝罪する。ラファエルは自分の存在意義を曲げることではできないと言いながらも、天使のことをそこまで考えた人間はいなかったと礼を言った。

他の天使たちもラファエルと同じ考えかとヘラは尋ねた。エゼキエルが代表して、天使が法と秩序よりも自我を優先しては信仰者に示しがつかないと言い、汚名をかぶったまま死ぬ覚悟はできていると答えた。

エティリスは自分たちよりも法と秩序を優先する天使たちのありように涙をこぼして、自分を大切にしたいと訴えた。エゼキエルもまた礼を言いつつ作り物である自分たちと違って祝福されて生まれた存在であるヒトは身を守ることを優先して欲しいと言った。

エルはラファエルに何を守る天使なのかを尋ねた。ラファエルは法と秩序を守る天使だと答え、エルはそれならファリスの気持ちに目が向かないだろうと言う。

ヘラとディルがそれぞれの神に、天使たちの無事と幸せを祈った。エティリスは泣き続けている。

ミヤは自分は天使とは対等であり、生まれた生命であっても作られた生命であっても、互いに大切に思うことも慈しむこともできる、命や想いに軽重があるわけではないと、ラファエルに言う。

ラファエルは自分のあるべき姿になりたい姿に差ができたのだから帳尻を合わせなければならないとまとめ、ここからは戦いが終わってからだ、もう残された時間はないと言いながら一行に礼を述べた。

決戦直前

ディルはステビアと自分の幸運をオラトリアに祈る。

ミヤはジェイスに過去にゴブリン帝国の皇帝クリムゾンアイにより広域アンチ・マナの使用例があることを伝えた。ジェイスの見解ではゴブリン帝国は魔鉱石の鉱脈を知っているのかもしれないということだった。ジェイスが手持ちの魔鉱石はサンプルに使う程度のごく少量しかない。まともに使える鉱脈はまだ見つかっていないようだ。ショコラッテ付近は、長く闇の勢力の支配下にあるため、ドワーフが近づくことができず、有力な鉱脈が手つかずになっているらしい。ジェイスが見つけただけでも、ヒヒイロカネ、アボイタカラ、ミスリの鉱脈があるらしい。しかし、貴重ではあるが世界を救う鉱脈ではないとジェイスは言い切った。

そんな話をしていると儀式まであと20分ほどになった。神殿（お菓子の城）の前に見慣れない女が現れた。神秘の国の衣装に身を包んでいるが、間違いなくヘロディアだった。ステビアもその女がサッカリンだと認めた。ステビアは眉をひそめるが、落ち着きを取り戻しサッカリンの前に飛び出したりはしなかった。ヘロディアに視線を向ける一行。

ヘロディアもそれに気が付き、一行を目を細めて見つめるとにっこり笑って手を振って神殿の甘味降臨儀式を行う広場へと入っていった。一行もそれを追う。

降臨の儀式

ステージ上にはおかしな顔をしたエリス、広場には精魂抜き取られたような住民たちが『甘味様、甘味様』とぼんやりした顔で声をあげている。ステージ上のサッカリンはニコニコ笑っている。

サッカリンの合図で甘味様の降臨が始まる。周囲が真っ赤に染まって上空の穴から赤い泥が落ちてきて住民たちを飲み込む。どうやらサッカリンが落とす場所をわざと間違えたいらしい。

赤い泥はステージ上のエリスが作ったお菓子の台を壊しながら入っていく。台から飛び出した人型はそのまま赤い泥の中に食われていく。泥が一瞬動きを止めると巨大な人型に変形していき女神のような何かになった。赤い泥は白い肌になり豊満な身体を持つ美しい金髪の女神になった……しかし、全裸だった。

固まるサッカリン。雄たけびをあげる女神。やっぱりと頷くクエスタ。呆れかえる一行。

誕生したのは甘味様ではなく、裸道テルアキの強すぎる思念による影響を受けた、裸身（らんみ）様だった！

神が降臨したから結果オーライと開き直すサッカリン。恥ずかしくて裸身様を見ることができないエリス。

解説を求めるエティリスに、**思念の指向性は強ければ強いほどよく、そのためたとえ異物が入ったとしてもエリス以上の思念が反映されることはなかったはずだが、さすがのエリスも裸人教には勝てなかった**とクエスタは解説した。

サッカリンは気を取り直してエリスに邪魔者を片付けるようにそそのかし、ピエロがエリスの周囲へと集まった。

ハンスはアハトを呼び出戦闘準備をする。

エルルが全てはサッカリンの謀かと尋ねると、**サッカリンは、まともな神官を言いくるめて神殿から遠ざけ、甘味で思念の力を集積し、神殿（お菓子の城）で増幅し、アインスがたてた長期計画を、サッカリンが『お手伝いして、たった2ヶ月で降臨させた。手違いはあったが』**と言った。

（計画が残念な脚気に終わりそうなことに）**反省を求め、アインスとどのくらいの知り合いなのかを尋ねるエルル。**

サッカリンは『アインスが訪れた街の雑貨屋で売っていたハンカチを持っている』と、ストーカー気質をカミングアウトした。

アインス本来の計画ではもっと時間をかけて長い年月をかけてパティシエルを認知させ不自然でない形で神を造形し、それが世間に認知されるか。神は捏造できるのかという実験をしたかったのだろう。それを無能な働き者であるヘロディアがぶち壊したと思われる。

ヘロディアをリスペクトする気持ちが大きく揺らいだ様子のエルルだった。

言葉よりKISSで（エリス&シンカー戦）

エリスを説得するステビアを護衛する形でハンス（アハト）とレイナとリオネルが戦闘に参加する。

初期は位置ではエリスと駆逐型シンカーが10体。事前にジェイスのアドバイスにより、殲滅型シンカーが出現しないように出撃するメンバーは全員レベル6以下とした。（レイナはこの戦闘のみ7→6にレベルキャップが認められた）

1ターン目

ハンスはヘラから借りたテオクリスタルを割ってP2フィールドを展開し、強制的にレベルを0にするシンカーに対抗する。

動きの速いハンスは前進してワイルディホワイトの一撃で駆逐型シンカーを凍結し一瞬にして全滅させた。攻撃後、アハトが武器から天使に変身した。

すぐに上空の穴から泥がしたり落ちて駆逐型シンカーが3匹増える。

レイナがワイルディホワイトで増援のシンカーに先制攻撃をかけるがP2フィールドの範囲外のため魔法がかき消された。

エリスは思念での首折りをレイナに対して放つが、シュガーの加護により不発に終わる。

ステビアはエリスに駆け寄って、甘味様と一緒に合おうというエリスの口を唇で塞いだ。ステビアの熱いキスによりエリスは行動不能になった。

2ターン目

天使たちの援護射撃が届き、増援のシンカーが全滅した。

上空の穴から泥がしたり落ちて今度は大型の駆逐型シンカーが一体だけ現れた。

ハンスの二刀流からの魔法剣とアハトの銃撃が集中するがタフな大型シンカーを削り切れない。

レイナはルーンロックで大型シンカーを呪縛し、行動の自由を奪った。

ステビアが眼鏡をかけさせようとエリスに迫る。甘味様が降臨したら廃人になるはずだったが意外に元気そうなエリスに安心しながら、ステビアはエリスの頬をむにむにしている。あと1ターンステビアを守り切ればエリスを陥落させることができそうだ。

さりげなくハンスとレイナをパスマンタルで回復させるリオネル。

3ターン目

再び大型シンカーの増援が2体現れた。

打たれ弱いステビアはシンカーに3回殴られたら死んでしまう。

ハンスはレイナの呪縛により行動不能な大型シンカーは無視して、増援の大型シンカーをアハトとの集中攻撃で沈めようと魔法剣を振りかざす。ハンスの左手に持ったポイズンダークがシンカーを傷つけるがシンカーに毒は効果がなかった。ハンスとアハトの集中攻撃でも削り切れなかったタフな大型シンカーだが、レイナのルーンロックで増援も2体ともギチギチに呪縛されて行動不能になった。

ステビアがエリスの首を引っ掴んで現実を見せた。思い描いた甘味様と似ても似つかない裸身様の姿にショックを受けて気絶したエリス。エリスが失神すると同時にシンカーも形を保てなくなり戦闘が終了した。

インターミッション1

クエストがエリスが廃人にならずに済んだ理由を説明する。

本来、甘味様を実体化するための思念とイメージの負荷は全てエリスに降りかかるはずだった。しかし、裸道テルアキの思念が混入した結果、エリスへの思念圧力は想定3割程度となりエリスへの負担がほとんど発生しなかった。つまりセフィとヘラとクロウが裸道テルアキを倒したお陰でエリスは助かったのだ。

しかし、クエストは、裸身様が見た目ほど面白い相手ではないと言い、一向に注意を促した。

ステビアに引きずってこられたエリスは意識を取り戻した。

ステビアからやらかしてきたことを聞かされたエリスは真っ青。ここ2ヶ月の記憶があいまいで三日間ほど記憶が飛んでいるようだ。人を殺したことやステビアまで殺そうとしたことを知らされて泣いているエリス。

間違えたなら正そうと言うセフィ。異口同音にサッカリンが悪いと言う一行。

サッカリンはいつもアインスの手伝いをするのに惜しいところで失敗すると残念さを披露。エルルにキャラが違うとつっこまれるとヘロディアは前の名前と仮の姿と開き直った。

四つん這いの女神（裸身様戦）

全長20mにもなる裸体を誇る裸身様は白く輝いている。しかし、そこにいるのは神話の神々であり魔人である。戦いやすい相手ではない。股間はつつつるしているらしい。

【捏造された神】 Lv23 神話に出てくる神々と同程度の強さを持つ捏造された神。その力はエルダードラゴンをしのぐ。神々だけあって、対神系スキル、また混沌属性で特攻を得られる。身体がアストラル体であり、対アストラル系スキルで特攻を得られる。HP600/600 回避14 魔法抵抗25 物理防御28 魔法防御23 拘束系、即死系スキル無効 不眠 精神攻撃無効 秩序属性無効 対神系神器（天使による攻撃はこれに該当。ヒヒイロカネ製の武器もこれに該当）、混沌属性（混沌属性のある発動体で使った魔法もこれに該当）が弱点（クリティカル-1、両方兼ね備えた場合クリティカル-2（7以下になる））対アストラル属性スキル使用時、防御力0

エリスとステビアが正気になったのは残念だが正気になった二人が裸身様の災厄による被害に恐怖する姿も悪くないとサッカリンはうっとりしている。あと半日で神性を獲得して特別な攻撃以外では傷つかなくなり、アパカルガに到着する頃には誰にも傷つけられなくなると自信満々。

ラカントは直接戦闘に参加するが20人の神官たちはバックアップに回りパスマンタルで援護をくれる。

1ターン目

セフィはダークソードとエンチャントルーン（氷）を発動。クロウは暗霧と士道覚悟、無念無想を発動する。

エルルの呼びかけにも気楽に答えるサッカリン。

フォルトゥナはエンジェランスで全員に防御を追加。セフィは調律剣で通常攻撃を二閃。クロウは八岐大蛇を繰り出す。エルルはトゥルーオブザレッドを炸裂させた。

捏造された神は石畳を剥がして放り投げてくる。捏造された神の背後に抜けたクロウ以外に降りかかる石畳。グランドディフェクトでダメージを軽減するセフィ、フォルトゥナはセフィのブルースフィアでこちらも軽減。ヘラは根性受け。エルルはプロテクトアミュレットを割って耐えた。

行動を遅らせていたヘラがダメージの深い自分とフォルトゥナを回復する。ラカントも大鎌を投げ大ダメージを与えた。

2ターン目

上空の天使たちが弓を射かけてくる。まだ神性を獲得していない捏造された神は大ダメージを受ける。

セフィはセイブザクインにダークソードをかけダブルキャストを宣言。フォルトウナはエンジェルステップを踏みながら二本の槍にダークソードを宣言。飛行開始する。ヘラはグレートヘイストセルフとマジックアクセラレーターを宣言。クロウは雨尾秘伝天城式・陰陽五輪重ね（オリジナルの必殺技）を宣言する。

エルルがトゥルーオブザレッドで攻撃。セフィはバイフォースエンチャント（氷）でフォルトウナのグングニルをエンチャントし、続いてフィンガーフレアボムズで捏造された神に集中攻撃。ヘラは2行動使ってサテライトバスターを発射する。フォルトウナは両手の槍を突き込んだ。

クロウは秘剣・燕墮として二回攻撃の後小太刀で追撃をかける。必殺技の効果によりアストラル属性が乗った剣技が捏造された神の生命力の半分をごっそりと奪った。

ピンチになった捏造された神は、喘ぎとも叫びともつかない声を出した。精神力を削りにくる攻撃。セフィが切り札のパワーシンクを使って達成値を落とすが、それでも全員に降りかかったダメージはかなり深刻だった。バックアップについているパティシエル神官たちのダメージは特に深刻でパスマメンタルの量が半減する。ラカントの大鎌投げもあまりダメージを与えられない。

3ターン目

上空の天使たちが弓を射かけてくる。こちらは安定したダメージを与えた。

フォルトウナがダークソードとエンチャントルーン（氷）を両手の槍にかける。

クロウがファストリックを奪って、秘奥・五輪重ねを放ち、これがとどめとなり、捏造された神はうつ伏せになって倒れ、戦闘に勝利した。

インターミッション2

30秒ともたずに神が敗北し、目が点になっているサッカリン。しかし、これから起きることを予感したのか一目散に逃亡した。

倒れていた裸身様の身体が再び赤い泥に戻り恐ろしい腐臭を放つ、ちょうど心臓の位置から人影が立ち上がった。

それは、シンカーとして再生したウォーロック、ホワイトの姿だった。

背筋に刃物を突き付けられたような感覚。ホオヅキの冒険者たちが初めて目にするそれは、決戦型シンカーだった。

ミヤが詳しく判別する。

【シンカー・ホワイト（決戦型）】シンカーの中でも、強敵の排除のためではなく、世界が確実に勝つべき要所で投入されるシンカーの最上位。殲滅型のように隙も穴もなく、かつより高度に行動するように組み込まれている。歴代の英雄の中でも、ウォーロック、天秤の騎士等、最上位の魂が選定され投入される。決戦型が投入された戦場では、基本的に勝利は拾えないとされている。Lv18 HP100/100 アストラルHP50 回避25 魔法抵抗26 物理防御21 魔法防御30 拘束系、即死系スキル無効 不眠精神攻撃無効 全魔法制御 戦乙女の祝福 HP30/30 HP30/30 HP30/30 HP30/30 HP30/30 戦乙女の祝福を全て打ち抜くまで本体にダメージは通らない。ターン初めに戦乙女の祝福は自動ですべて回復する

次の戦闘の勝利条件は、ホワイトのHPが20以下になっているときにユリーカが距離0mでA行動可能な状態を維持しているという条件を達成することになる。ホワイトを倒してしまうと、赤い部屋に戻り復活してしまうので裸身様が再生するため、二戦目からやり直しになる。

復讐の杖を所持するユリーカは奥義の大魔法も魔導書が必要な魔法も全て使用可能。ただし使用する魔術に必要なアイテムがある場合は別途用意する必要がある。

戦乙女の祝福は防御力がなく30ダメージを与えると1枚破壊できる。（ただしホワイトの回避を命中達成値で上回ることが必要）余剰ダメージは全て無駄となり、連撃では一枚しか破壊できない。範囲魔法を使っても一度に破壊できるのは一枚まで。指名系のダメージ魔法は戦乙女の祝福を無視して直接ダメージを与えられる。

事前バフは1ターンのみ可能とする。

戦乙女の祝福は失われた精霊魔術。プリーストの神聖祈祷に魔唱石は使用可能。

決戦型とビー玉と（ホワイトシンカー戦）

圧倒的な存在感を示す決戦型シンカーを目の前にするホオヅキの冒険者たち。

裸身様との戦闘を終えた仲間たちが戻ってくる時間を利用してそれぞれが可能なバフをかけていく。

ユリーカがテオクリスタルを割ってP2フィールドを形成。魔法の使用を可能とする。

ルーンソードの力を使えるユリーカとミヤはリザレクターでバフの回数を増やしていく。

ディルから全員に【プレッシング・オブ・オラトリア】

ミヤから全員に【アンチ・マジック】【エンジェラス】

アリーヤから、アリーヤとエティリスとディルに【フィジカルパーフェクト】

ユリーカは自分自身に【ルーンシールド】、ディルのエリュティアグランデに【ハイクオリティ（1）】

エティリスは自分自身に【ゴッドス・サイ】

クエスタは上空で援護の体勢になっている。天使たちも援護射撃ができる体勢。

五人のソーサラーは、全てを知る者ウォーロックの力をコピーしたシンカーに立ち向かう。

1ターン目

高い固定値を背景に冒険者たちに戦術学勝負を仕掛けてくるホワイトシンカー。しかし、その勝負を受けて立ったミヤが同値勝利。ユリーカの老獪策のお陰もあって先手を取ることに成功する。

ローブを着て両手に剣を持っているホワイトシンカーは心配されたリザレクターを使ってこないが、**ビー玉を20個ほどばら撒いている。ミヤがうっかり出しかけたダークプリズンがビー玉に吸い込まれた。黒く輝くビー玉。**クエスタによるとタバサの使う、相手の魔法を吸収して好きなタイミングで打ち返す魔術のようだ。ビー玉を破壊するためには射撃を当てるしかない。命中させるには（目標が小さいから）**-8のペナルティを背負って目標値15。**ビー玉自体は脆いので射撃が当たりさえすれば破壊できそう。榴弾など範囲攻撃での破壊はできないが、弓道の大量の矢を降らせる技やショットガンでバックショットやバードショットを撃てば、まとめて複数個を破壊できるようだ。切り札のアンチ・マナを吸い込まれる可能性がある以上、**全てのビー玉を破壊しなければならない。**

ユリーカはリザレクターを宣言、ディルは生け捕り・リザレクター・集中・騎士宣言・騎士道大原則を宣言、ミヤは生け捕り・リザレクター・貴族宣言・集中・炎帝舞踏・明鏡止水・プリズムライトを宣言、エティリスは縦横無双・ダークソード（アダマンタインショーテル・ソロモン王の剣）・情熱のワルツ・老兵の挽歌・魔装術を宣言。力の限りに盛りまくる。

先陣を切ったエティリスは揺らめきの髪飾りの力を開放、ジャグリングを開始し、瞬間に12本のファルシオンを投擲してホワイトシンカーに殺到させ、ホワイトシンカーの逃げ道を塞ぎながら戦乙女の祝福を一枚破る。次いで前進して左右の曲剣を振るって一枚ずつ障壁を破壊した。さらに**その位置でテオクリスタルを割ってホワイトシンカーに対して後続が攻撃できるように場を整えた。**

続いたディルが集中移動してからのジャンプクラッシュで一気に距離を詰めて、魔法剣エアとサブアームを利用して英雄のノルドアックスで一枚の障壁を破壊、リザレクターで追加した行動で、エリュティアグランデで幻影刃を打ち込んでさらに一枚の障壁を破壊。これで全ての障壁が破れた。続いての英雄のノルドアックスによる2回攻撃でホワイトシンカーの生命力をぐっそりと半分ほど削り取った。

アリーヤは前進してショットガンを構えクイックローダーでバックショットを装填する、ミヤは和弓と矢を投影して、二人で次のターンでのビー玉割りに備える。

ユリーカはビー玉の性質を調べるために対象拡大（と、距離拡大）を入れてマジックミサイルをホワイトシンカーに撃ち込んだが、拡大を入れてもビー玉は一つしか使われなかった。残り一つの行動をユリーカは待機で終わらせる。

エティリスが次のターンに着弾させる12本のファルシオンをフルムーンでばら撒いて、ミヤがユリーカを対象にマイティガードを宣言して、冒険者側の手番が終わった。

対するホワイトシンカーの手番は熾烈を極めた。**両手の剣が赤黒い鞭のように伸びてディルとエティリスに襲い掛かる。アルテミス**のホワイティリボンにも似た技だったが、禍々しさを感じさせる。腕は動いていないので自動攻撃のようなものだろうか。エティリスは回避してディルは分厚い装甲で止める。

そしてホワイトシンカー本体が動く。**まずはアポカリプスが炸裂した（おそらく小の方）。61点というHPへのダメージはもちろんのこと、+2以上のマジックアイテム以外の装備品（アミュレットを含む）をすべて破壊してしまう破壊魔法**に対して、ユリーカとエティリスがパーミッションで被害を否定することで、全員を守ることができた。この破壊魔法の中でもビー玉は無事に残った。

宣言無しのダブルキャストで次にジェノサイドオーダーを詠唱。全員を殺しにかかる。ユリーカはルーンシールドの力で抵抗、ミヤはアンデッドであるハーティリアの身体に切り替えることで即死を回避、アリーヤとディルとエティリスはシュガーの加護を使うことで難を逃れる。

さらに**トリプルキャストで魔王呪文ジュデッカが炸裂した。**抵抗不能な氷結魔法にアリーヤとディルとミヤとユリーカはライフアミュレットを使うことで氷結を回避。エティリスは縦横無双により氷結のバッドステータスを拒絶した。

2ターン目

ホワイトシンカーの4回攻撃は何とか乗り切ったが、もう一度4回攻撃を受けたらしのぎ切るのは難しい。上空のクエスタもかなりボロボロになっている。老獪策を使用しているせいで、天使たちの弓矢による援護は自分たちの行動後になる。自分たちで勝利条件を満たさなければ、また4回攻撃を食らうことになる。

ミヤはリザレクター、集中、プリズムライト、貴族宣言、炎帝舞踏を宣言。ユリーカはリザレクターを宣言。エティリスは情熱のワルツ、老兵の挽歌、魔装術を宣言。ディルはリザレクター、集中、騎士宣言、騎士道大原則を宣言した。

前のターンにエティリスの投げたファルシオンがホワイトシンカーに襲いかかり、戦乙女の祝福を2枚破壊した。ほとんど活力が残っていなかったエティリスは奥の手のマルチカティーを飲んで回復する。ポーションを飲んだせいで歌が止まった。

ディルはサブアームもフル活用して、英雄のノルドアックスでの二回攻撃とエリュティアグランデの幻影刃を、リザレクターで増えた手番も使って二回ずつホワイトシンカーに叩き込む。最初の英雄のノルドアックスの二回攻撃で戦乙女の祝福を1枚破壊。次のエリュティアグランデによる幻影刃でさらに1枚破壊。次の英雄のノルドアックスの二回攻撃でさらに1枚破壊し、最後のエリュティアグランデの幻影刃でぎりぎりホワイトシンカーを瀕死状態に追い込むことができた。

エティリスがアリーヤの射撃に合わせて射線を開けて、アリーヤがモスバークショットでバックショットを放つが的が小さすぎてビー玉には当たらない。

ビー玉を全部破壊しないとアンチ・マナを吸収される可能性がある。アンチ・マナの神秘がビー玉の神秘に打ち勝つ可能性もあるが、それは五分五分になることが分かっているユリーカはまだ動くことができない。

ミヤは投影でさらに矢を増やして20本にしてから、投影した矢を観縛射で放った。ビー玉が1個残る可能性はあるが、1個ならディルやエティリスがダムビットでマジックミサイルを撃てば飽和させられるかもしれない。結果、ミヤは全てのビー玉を破壊することに成功した。

障害が消えた時点でユリーカが瀕死のホワイトシンカーのところに走りこんだ。リザレクターのお陰で手番はまだ一つ残っている。何か手違いがあった気がするが気のせいだった！こうして戦闘の勝利条件を満たすことに成功した。

マナが消えた時

瀕死のホワイトシンカーに隣接したユリーカ。ホワイトシンカーはダメージが限界点を超えれば赤い部屋に戻って再生するからか、ダメージを拒絶しない様子。

後ろからジェイスがアドバイスを飛ばすのを聞きながら、ユリーカがホワイトシンカーの胸に手を当てて体内に向かってアンチ・マナの術式を発動する。ホワイトシンカーの抵抗を抜いたアンチ・マナの術式が展開。シンカーの発生させる赤い空間を通常の空間に戻していく。ユリーカの手はホワイトシンカーの胸の中に入って行って、細い女性の手首を探り当てた。

ユリーカが手首を握った瞬間、ホワイトシンカーが最後の抵抗で狂ったように暴れ始めユリーカの腹部に向かって貫手を放つ。

ういっちのローブを貫いてユリーカの腹に沈むホワイトシンカーの指。あまりのダメージに手を離しそうになるユリーカだがわずかに残ったシュガーの加護で、なんとか手を離さずに、細い手首の主を引っ張り上げた。シンカーの胸が裂け、中から白い肌に白い髪の毛のホワイトが救出された。

残ったシンカーが新たな宿主を求めてユリーカに襲いかかるが、上空に待機していたクエスタの【其は心という名の弓】に吹き飛ばされ、散らばった破片も天使たちが射かけた無数の矢に焼き滅ぼされた。

救出されたウォーロック、ホワイトは新たな身体を得ていた。普通の人間とも違う雰囲気、以前に救出されたユラ・シグマに雰囲気似ている。首の折れた死体は別にステージの上に置かれている。死体の方は腐敗が進んでいるが、調査の必要有り判断したクエスタが宝石魔術で収容して持ち帰ることになった。クエスタ曰く、ただの肉塊のようだが…？ 儀式のときに泥に飲み込まれた一般人たちも倒れている。

ラファエルは捏造されたものとはいえ、神を倒してしまったホオツキの冒険者たちを定義づけできないでいる。そこに異口同音に冒険者だと答える冒険者たち。ラファエルは冒険者たちに心から感謝しているが、同時に不安を感じるという。神をも倒してしまうホオツキの冒険者が世界から異物として扱われないかと。冒険者たちも口には出さないものの自覚があるようだ。

ファリスたちに本当の気持ちを伝えるように促される天使たちは、洗々ながら生き恥を晒すしかない諦めたようだ。戦局が危なくなったら特攻して散るつもりだったらしい。

そこに上空から大きく響き声が聞こえた。

神の造物主

声の主は上空の赤い穴に腰掛けている男、アインスだった。次元の裂け目に座ることなど本来はできない。つまり、そこに腰掛けているということは次元の裂け目をも支配しているということになる。上空の穴にいるように見えるが位相がずれているようで互いにコミュニケーション以上の干渉はできないようだ。

エリスが甘味の使者様と呼んだことで、アインスが教祖だということが確定。アインスはヨハネという本名があるとさりげなく明かす。そこからアインスは冒険者たちの反応をよそに語り始める。

アインス『私は普段は楽しいか楽しくないかだけで行動するのだがね。今回のこれは違うんだ。今回は出来損ないだったが、中々面白い趣向だっただろう。私はね、「君達に神が産まれる瞬間を見てほしかった」んだよ。この世界について、私は色々と研究してきた。天秤の騎士というのに協力したのもその一環だ。かれこれもう数千年、古代魔法王国の時代から私はずっとこの世界について研究を行ってきた。私はね、500年前に一度「君達」に勝っているんだよ。天秤の騎士を倒し、シンカーを支配下に置き、この世界を支配する根本的な力に干渉する術を覚えた。エリにもあってきたよ。彼女の弱さに付け込んで、何度もこの世界をやり直させてもみた。世界の中心で根源を操る存在もこの程度だ。そして今回、私はいよいよ神を造ることに成功した。世界を操り、人類を滅ぼし、英雄を絶やし、調停者を排除し、世界に錘をかけ、根源に到達し、その支配者をそそのかした。だが、私に対して咎めを行う存在はいない。私はね、確信したよ。この世に、神なんて存在しないとね。私はずっと信じてたんだ。いつか待っていれば本当の神が私に語り掛けてくれるんじゃないかとね。しかし、今回で結論がでたよ。この世には神は存在しない。だから、私が神になることにした。ヘロディア、サッカリン、まあ、どちらでもいいが。あれは愚かだが私を信仰するという点では悪くない。世界の全ての人間が私を神として信仰するべきだ。だから君達にも一応問うておこうかとね。私に服従し、私を信仰し、私の信者となって、私を崇める気はあるかな？』

ヘラが神になってどうするのかと問いかけると、どうするかではなく神になるということ自体が重要だとアインスは答える。アインスからの呼びかけを異口同音に否定するホオヅキの冒険者たち。

アインス『はははは、まあ、そうムキになるなよ。答えは分かっているさ。答えはNOだ。500年前もそうだった。君達英雄（ヒーロー）は、決して支配者（ヴィラン）に屈したりはしない。回りくどくてすまないね。今回の目的はただ一つ。君達への宣戦布告だよ。私はもはや神さえ作ることができる。神の造物主となった。これから私は君達を全力でつぶしにかかることにする。これから先、君達は神話を相手に戦うことになるのだ。人間の身で、いつまで神に逆らうことができるかな。君達ホオヅキの船をつぶし、私は今度こそ、この世界から英雄を消し去ろうと思う。500年前のようにね。500年前に、私は火を消し損ねたのだ。ゼロの亡霊がホワイトを生み出し、ホワイトの亡霊がホオヅキを生み出し、ホオヅキの執念が君達を動かしている』

ホオヅキの冒険者たちはそれぞれの表現でアインスの宣戦布告を受けた。

アインス『別に安い事を言うつもりはないんだ。平たく言うとね。そろそろ決着をつけようじゃないか。まあ、今すぐというわけではない。せいぜい抗ってみたまえ。本当は今すぐここで神を4つも生み出せば君達は殺せるんだがね。しかし世界を掌握するのはこれがなかなか難しいだ。もうすこし練習をしてから、君達を心を込めて、油断なく、丁寧に、一片も残さずすりつぶすことにするよ。今回はこれだけ言いたくてね』

ヘラはそのために関係ない人を巻き込んだなら許さないと言うが、アインスは人は神に利用され、神のエゴに奪われるために存在する。自分のためならずすべての人間を利用すると、自分は神だからそれが許されると断言した。

アインス『異議があるなら止めてみたまえ。英雄達……と、いかんいかん。そろそろオーバーフローが起こりそうだ。それでは、また会おう』

空間に並んだ0と1の羅列が全て0になっていく。アインスは慌てたように仰向けに赤い穴の中に落ちていった。そして、赤い穴が閉じた。

彼去りし後

ラファエルは、アインスがエリさえそそのかしたことを恐ろしいことだと言う。

オーバーフローという言葉の意味を捉えきれない冒険者たち。テクノロジーに詳しいディルが深く考察をする。EGGの機関部にそのような用語があったが、ブラックボックスになっていていまひとつ意味がつかめない。

エリスもステビアも無事だが、エリスは先行きに不安を感じ、ステビアはそんなエリスにどこまでもついていく気持ちを固める。エティリスは、エリスやステビアたち、サッカリンを除いたパティシエルの人たちのことをとりなしてくれるようにラファエルにお願いをする。ラファエルは神をも倒す者たちに言われたのでは仕方ないと受け入れた。

ラファエルによると、エリはこの世界、この星を作った人間で詳しいことは彼女自身に訊くしかないとのこと。エリの書棚に行くにはワー（クリーチャー）に守られた、遊牧地域の中心にある神域から入るしかない。独立天使たちはみんなそこからこの世界に現れたという。恐ろしく強い力を持つワーたちに受け入れられるためには獣人たちの根源に行き、根源に受け入れられなければならない。獣人たちの根源は何か言葉のようなものらしい。【そこ】にたどり着いて、ウェアウルフやフェルパーたち諸々の獣人たちの起源に触れ、ワーたちとの付き合い方を学ぶ必要がある。そして、獣人たちの根源は神秘の国にあるようだ。

何か言いたげだったテレサをヘラが促す。神がないから自分が神になるしかないと言うアインスは、心のどこかでまだ神を捨てきれないでいる。しかし、アインスを止めることができるのはホオゾキの冒険者だけだろうとテレサは言った。以前にホオゾキのVIPルームでテレサとアインスが数日にわたって何を議論していたのかと聞くエティリスに、テレサは神の不在証明についての話だったと明かした。テレサは遠からずこうなる（アインスが神になろうとする）ことは分かっていたようだ。

テレサは神は確かに存在すると言い、それは冒険者たちが信じている神とはまた違った存在だと言う。それについて説明するのは困難らしいが、戦いが終わったらその話をしようとテレサはヘラに言った。

夜のお菓子

儀式の会場で倒れていた一般人を救助し介抱していると夜になった。

倒れた人たちは外傷は擦り傷や捻挫、ひどいものでも骨折程度。それよりも意志の力を吸い取られて鬱状態になっている人が多い。カウンセリングが必要なので、セフィが治療に当たった。

お菓子の城はなぜかまっとうな存在として定着し、本当のお菓子の城になっていた。クエスタの幻想殺しの眼鏡をもってしてもお菓子にしか見えない。食べられるし、食べても生き物のように再生する。壁はサクサクしたウェハース。エルルがつまみ食いをしている。シュガーによると元々城は豊饒神パティシエルの贈り物で赤い泥のせいで変質していたらしい。人数は少ないがピエロもいる。全員まっとうなラカントの部下のピエロのようだ。

エリスの思い込み信仰の力はとても強かった。エリスは全てが正しかったというわけではないが、甘いものを愛する心と、それを色々な人に知ってほしいという熱意と行動力は本物だった。豊饒神パティシエルはそれを愛したのだとシュガーは言った。お菓子の城とベル・オブ・パティシエルはそれに対する贈り物で、豊饒神はそれを最後に消えるはずだったが、今回で意外に信者が増えて（234人）信仰がまとまったため、神として復活を果たしたらしい。この世界で生まれたものすべてをエリは祝福している。だから（たとえ暗黒神であっても）あらゆる信仰に天使は存在するらしい。信仰が消えれば天使も消える。だからシュガーも消えかかっていたようだ。シュガーの計画では穀倉地帯であるショコラッテ地方との貿易をカードに無闇に討伐されないように【甘党】なる政党を作ってアパパカルガに進出するつもりらしい。

ロロカ村で見たような冬が越せなくなるような状況はサッカリンが思念エネルギーを吸い上げていたからだった。サッカリンがいなくなったので、各地の村は正気に戻って働き始められるそうだ。

ウォーロックのホワイトは一晩昏睡。待っていれば目を覚ますようだ。

ユリーカはクエスタに今回の役目を終えた復讐の杖を返却した。追って時計塔からの通達が来るという。クエスタはユリーカがどの魔術師の家系なのかをユリーカに尋ねた。ユリーカは普通のサトウキビ農家の出身で、名乗ったことはなかったがサイファーという家名があるらしい。秋のお祭りで円になって即興で詩を作る催しをしていたその一族は言霊遣いのロードサイファという家系だったことが分かった。一門が時計塔にいるかどうかはユリーカも知らない。両親に訊けばわかるかもしれない。

ラファエルはほとぼりが冷めたころにアパパカルガに戻るつもりらしい。

ディルはヴィーヴェへのお土産に飴細工の手鏡を持って帰る。銀色の飴を磨き上げて鏡にしたものらしく、鏡としても使えてマジックアイテム扱いで腐らない。

セフィはロロカ村で食べ損ねたアップルパイをラカントにリクエスト。ラカントは絶品アップルパイを恐ろしい速さで焼き上げた。食べるとTP5回復し3年ももつらしい。ミヤがアップルパイを真似してみたがうまいかなかった。秘伝のコツがあるようでパティシエルの神官になったら教えてもらえるようだ。

パティシエルが暗黒神扱いされるのは、ラカントの見解によると、甘いものを食べることを墮落だとみなす剣王国の文化が原因らしい。

フォルトゥナはラファエルの元に弓術を教えてもらいに行った。それはラファエルの固有の技らしいが、教えることを検討してくれるという。

各々交流をしてから、一行はラカントとシュガーに見送られてアパパカルガに戻った。

王の裁きと教皇の感謝

アパパカルガへの道中でジェイスは消えていた。

ディルはアパパカルガへホワイトを抱いて連れ帰ろうとしたが無理だった。エリスとステビアについては交流した人がいなく、状況はよく分からない。

アパパカルガの街の門では王国騎士団が迎撃の陣を構えている。大剣を担いだバラクがラファエルに言いたいことはあるかと訊き、ラファエルは王の裁きを受けると言った。舌打ちして剣を収めた**バラクは国王からの言葉を伝える。『忠義忠道大儀である。その剣に墨りなき事、今後ともその行いに於いて披露せよ』**暗黒神の降臨を防いだという噂は既に王都まで届いていた。憎まれ口を叩いて戻るバラクにラファエルは詫びた。セフィの助け舟にも聞く耳持たなかった。

王都に入った天馬騎士団はまるで凱旋したかのように住民たちに迎えられる。それがかえって辛そうなラファエルたち。

王城に戻ると国王フラクナ14世が待っていた。ラファエルと冒険者を労う国王。国民たちに英雄扱いされてしまうことが天馬騎士団に与えられたフラクナ14世からの罰だった。政治家としてのフラクナ14世は、王都よりも私情を優先したラファエルたちを許すわけにはいかない。しかし、国王としてのフラクナ14世は国の体裁よりも民草を優先したラファエルたちを褒めた。もし、民草よりも国の体裁を優先していたのであれば本当に罰を与えるつもりだったと明かす。改めて民草のために泥をかぶったラファエルたちを褒める国王だった。

国王はホオヅキの冒険者たちのしたことを、剣王国の誇る精鋭をもってしても成しえないことと評価し、**冒険者たちが返す言葉を前もって分かっていつも剣王国を支える騎士にならないかと誘う。**国王の予想通りの反応を返すホオヅキの冒険者たち。既に国王はホオヅキの冒険者が神秘的の国に向かうということを密偵の報告により把握していた。今回の働きへの報奨として国宝を与えると予告した。国王との謁見が終わる。**ホオヅキの冒険者たちが王印を返却する。**その後は慰労の晩餐会となった。

冒険者たちが**ファリスとラファエルの姿を探すと、テラスで二人きり。良い雰囲気になっている**ようなのでしばらく邪魔しないように待つ冒険者たち。

気になるのは再びショコラッテにどう戻るかだが、**アパパカルガからショコラッテに向かうルートはまだ確立できていないようだ。**パティシエル神殿が組織する政治結社【甘党】が何か手を打つだろうがまだそれは先の話。そんなことを考えているとファリスとラファエルが戻ってきた。

ラファエルが戻ってきてくれたことに、冒険者たちにお礼を言うファリス。ちゃんと気持ちは伝えられたようだ。冒険者も口々に祝福する。ラファエルも生き恥を晒してでもファリスの傍にいななければならないと、勇気を出して帰ってきてよかったと言う。ファリスもお礼の品を出してくれるようだ。エティリスは神殿から借りた地図をラファエルを通じて返却。ショコラッテには**ラファエルたち天馬騎士団が送ってくれることになった。**ショコラッテまで一日で移動できるとのことだった。ファリスからは何かあれば訪ねてきてくれと言われるホオヅキの冒険者たちだった。

ミヤはゲートトラベルのゲートの建設にどのくらい時間がかかるのかを確認。8週間とのことだった。

セフィとハンスは自分の船から剣王国復興のための援助物資を抛出。それぞれに名声(+5)を得た。

亜音速の天馬

翌日、**天馬騎士団がホオヅキの冒険者たちをショコラッテに送ってくれた。**高速移動できることが望ましいと騎士団にも伝わっていたようで特急便になった。一人一人が天馬にまたがらせてもらって天使の腰にしがみついた冒険者たち。手を離したら死ぬと天使たちからの忠告を聞いて空を駆けると、**トップスピードで600km/hを体験することになった。**結局ショコラッテまで途中で休憩を何度か**入れながら3時間で到着していた。**休憩を挟まなければ1時間で移動することも可能らしい。

ここで、ホワイトに会いに行く組とエリスとステビアに会いに行く組に自然に分かれた。

後継者ワイズマン

ホワイトはお菓子の城の病室で療養中だった。ベッドに入ったまま外を眺めているホワイト。冒険者たちに世話をかけて申し訳ないとホワイトが詫びると、冒険者たちは口々にいたわりの言葉をかける。

ホワイトの身体のことを訊くと、**ホワイト自身にも身体のこととはよく分かっていないらしい。クエスタの眼鏡を借りたことがある人の眼で見ると、ホワイトの身体はひび割れていて、割れ目に接着剤のような赤い泥が詰まっているように見える。**タバサの教える緑色のガラス玉でも身体を元に戻せるとは思えない。ホワイトの感覚では『今の私は明らかに人間ではない。まあ、もともと人間と言える代物ではなかったが、しかし、化け物でも魔法生物でもない。人間の部分と、よくわからないものが混ざり合って、なんだかおかしなものにされてしまったかのようだ』とのこと。

ホワイトの話では**赤い部屋は事前に知識を持っていた彼女ですら泣き叫んでしまうような地獄だったらしい。化け物のような身体にされたが、赤い部屋に閉じ込められるよりははまだましだと言う。二度と死んで戻りたくないそう。**

ホワイトは十分に情報を分析せずにエリス・リトルに返り討ちにされた**自分にはもうウォーロックの資格はないと言った。彼女の復讐を果たしたユリーカを、ホワイトはウォーロックの後継者に指名した。サイファの魔術師ユリーカに今日からワイズマンを名乗るように言い渡した**ホワイトは、ウォーロックは片手間に冒険者をしていられるほど暇ではないと言う。**ユリーカが冒険者としてなすべきことをすべて成し遂げて引退した時に、ユリーカはウォーロックの英知をすべて受け継ぐと**ホワイトは宣言した。

ユリーカ一族サイファは円を組み言葉を並べてその場で詩を紡ぎ出して魔術としていたようだ。天秤の騎士よりも古い歴史を持つ言葉で、それを【ラップ】と呼んだらしい。全てをゼロにするアンチ・マナの魔術をユリーカが使いこなすのは円を司る才能があったからだろうとホワイトは分析した。

ディルは**アインスが出現して消えた時の現象をホワイトに説明して、アインスが語ったオーバーフローについて説明を求めた。ホワイトはそれを【この世界を作り出しているコード】だと言う。**ホワイトも説明に困るが、説明に替えてこうたとえた。『ひどく乱暴にいうなら、毛織物は一枚布に見えるが、実は細い糸を編んでできている、程度の情報だよ』**この世界は全て、ゼロ(0)とアインス(1)、すなわち無と有の組み合わせでできている。その無と有の配列をコードと言う。**そうホワイトは説明したが、その知識を得ることは、クッキーが『自分は小麦粉で作られた』と認識するようなもので、あまり意味を持たないと断じる。

ホワイトは、それは神が存在しない証拠かと訊かれるが否定する。**なぜこの世界が0と1できているのかは作った本人【エリ】に訊きに行けばいいと言う。ミルフィーユ世界(天秤の遺跡に入った冒険者たちが巡った四つの世界と思われる)で【0と1で構成されていない世界】から来たレベルを持たないのに冒険者と互角に渡り合う侵略者(大佐たち黄色いクリスタルを使用する軍隊と思われる)と戦ったはずだと言った。**(GS17話『虹色の英雄』後編での体験を指す)

ホワイトは『**すべての知識は全知とは違うのだ。ウォーロックは人類の持つすべての知識を持っているが、知られざる知識まで知っているわけではない。人類の誰もが知らなかった見えざる手に到達するのが、お前達冒険者なのだから。ウォーロックとして期待しているよ**』と、冒険者たちを励ました。

ホワイトは自分の身体の謎を解き明かし人間の身体に戻すために、旅に出ると言う。ホオヅキに寄ってユラを連れ出し、アンチ・マナ発動の鍵になる魔鉱石の鉱脈のヒントを探しに行ったジェイスを追ってゴブリン帝国の方へと向かうらしい。時計塔はどうかと心配するユリーカだが、ホワイトは**元々ウォーロックは一所にはとどまらないもので時計塔はこれまで通り変わらない**と言って安心させた。しかし、在野の魔術師にころっと負けたら格好がつかないから稽古をつけて欲しいと言われると、自分をコピーしたスィンカーに勝ったならそうそう負けるはずはないと一蹴した。帰りを待っている者がいるのではないかとアリーヤは聞くが、帰りを待つ者にこんな姿は見せられないとホワイトは答えた。

パティシエル様がみてる

エリスとステビアを探していると、**中庭のベンチで人だかりに取り囲まれているエリスがいた。**料理の腕に覚えがある料理人たちがエリスの元に甘いお菓子の作り方を学びに来ているらしい。**一所懸命にお菓子の作り方のコツを料理人たちに教えているエリスはとても忙しそう。**

サッカリンはさすがに行方不明。ステビアを探しに行く冒険者たち。探し当てた**ステビアはベンチに座ってぼんやりとしている。お菓子作りもできない自分にエリスを助けてあげられる要素がなくて、ただ傍にいただけでは申し訳ないからアインスに帰ろうかと思っ**ているという**ステビア。**そんなステビアを陰から見守っているのはシュガーだった。

友達だからそばにただで、エリスの支えになりたいのに、仲間の中で戦力外になっている自分が許せないステビア。ステビアの気持ちは分かるというエティリス。**エティリスもステビアと同じような立場に長くいたと体験を話す。**どうしてそんな中でやってこれたのかどうすればいいのかとステビアに聞かれたエティリスは、**他にいくところがなかったので辛抱しながら自分ができることを少しずつ見つけていったと語り、いつか必ずエリスがつかずくことがあるからその時までできることを辛抱強く探してくださいと、それでもだめなら一緒に悩むからとエティリスはステビアに言った。ステビアはめげずに一つ一つやっていこうと言い、口々に励ます冒険者たちにお礼の言葉**を言った。

物陰では、**パティシエルはちゃんとステビアの顔を見てるとシュガーがぼそぼそと呟いている。**

リザルト

冒険者たちは亜音速の天馬によってホオヅキの船まで送り届けてもらった。

ホワイトはユラと共に、ジェイスを追ってゴブリン帝国に旅立つ。パティシエルは正式に闇の勢力の暗黒神殿となり、しかし光の勢力とも対等にお話をする不思議な神殿として、剣王国の食糧事情改善に貢献する。剣王国には今度こそ一時的にだが平和がもどり、落ち着いて復興に努めることができるようになった。

ホオヅキの冒険者たちの次の目的地は、神秘の国、獣人の根源だ。

50000経験点 20名声 30FP テオクリスタル2つ獲得。報酬は一人あたり金貨1000枚。(10万セレン)

経過は6週間。

金貨による報酬とは別に剣王国の王室と双子神殿などから追加報酬が届いている。(アイテムの詳細は略)

○天軍の弓ラファエルの呪文書

○ダムドラオンの呪文書

○デバイスリフレクター

○プロテクトボックス

○妖精のたまごぱん

○領地(3人分)

○ジャンヌ・ダルクの剣

○あかほん

○ルドラの秘宝

時系列

1年前（ショコラッ テ到着日基準）	パティシエルの教祖がエリス・リトールの元を去り、1年後に甘味様が降臨すると予言
半年前（ショコラッ テ到着日基準）	名も無き豊饒神の名も無き天使がエリスとステビアのためにベルを渡す。
3ヶ月前（ショコ ラッテ到着日基準）	ニブルヘイムでのサロメの事件
2ヶ月前（ショコ ラッテ到着日基準）	サッカリンがパティシエルに合流
1ヶ月前（ロロカ村 到着日基準）	ロロカ村にパティシエルが手を伸ばす
1日目	ホオヅキを出発 連絡船でアパパカルガへ向かう
2日目	
3日目	
4日目	
5日目	アパパカルガ入港 依頼者の教皇に会いに王宮へ デイルとバラクの決闘
6日目	アパパカルガで情報収集 乗合馬車でバロッカへ出発
7日目	
8日目	戦場跡に差し掛かる。デュラハンに襲撃されるがフィガロ兄弟が撃退。
9日目	戦場跡。フィガロ兄弟が仕事をした。
10日目	戦場跡。フィガロ兄弟が仕事をした。
11日目	バロッカに到着 Jとコンタクト ロロカ村に向かう
12日目	Jが人知れず仕事をした。
13日目	ロロカ村に到着 Jの知り合いトマスとミーシャの家に宿泊 パティシエルの集会に参加
14日目	集会翌日 集会参加者、特にアップルパイを食べた人に異変 ショコラッテに向かう
15日目	
16日目	
17日目	
18日目	
19日目	
20日目	
21日目	ショコラッテ到着 潜入班潜入開始 ヘラ、ミヤ、エティリスが翌日正午までブリスト消失 クエスタがユリーカにウォーロックの復讐の任を伝達 お菓子の城の真の姿が明らかになる
22日目	行き倒れを求めて街探索へ。テレサを発見し救出。ステビアとラカントを味方につけ、シュガーに名を与え、ラファエルたちと会話をする。現れた神と戦闘し、勝利。ウォーロックを赤い部屋から救出。アインスから宣戦布告を受ける。その夜は被害者の救助と介抱にあたる。戦後処理。
23日目	アパパカルガへと出発。
24日目	
25日目	
26日目	
27日目	
28日目	
29日目	
30日目	
31日目	
32日目	
33日目	
34日目	
35日目	
36日目	

移動時間

移動時間

移動時間

移動時間

移動時間

37日目	アパパカルガ到着（往路からロロカ村に宿泊した1日分を引いた日数かかったと仮定） 国王との謁見。天馬騎士団が許される。晩さん会に出席。ファリスとラファエルが関係修復
38日目	天馬騎士団に3時間でショコラッテに送り届けられる。 ユリーカがホワイトから後継者に指名されてワイズマンの称号を得た。そこからホオヅキまで天馬騎士団に送られる。 冒険終了。

地名リスト

アパパカルガ	剣王国フラクナスの王都。ホオヅキも以前停泊した。港の封鎖も解除された。
バロッカ	剣王国の光の勢力の最南端の街。人口1000人ほど。猫の字亭で案内人Jと落ち合う。アパパカルガから乗合馬車で5日間の距離。移動の途中、戦場跡でアンデッドに襲われた。アルマーサの神殿がある。
ショコラッテ	剣王国南西の大穀倉地帯。30年前から闇の勢力が占拠している
ロロカ村	剣王国の南の村。人口は100人ほど。バロッカから歩いて2日間の距離。パティシエルの集会が行われ半数近くの村人が参加。アルマーサ信仰が脅かされている。
二月の丘	妖精王国ティルナノグの入り口となる地。エルフたちが堅い守りを構えている。
タキ・アスカラ	現在ホオヅキが停泊している剣王国の離島。アパパカルガから連絡船で4日間の距離。
お菓子の城	神殿とも本殿とも言われているようだ。エリスがショコラッテに入った時には既にあった。実在はしているものの、それは赤い部屋の中身で構成された深淵そのもののような神殿だった。ホオヅキの冒険者が隠れている洞窟からは4km以上離れている。
洞窟	ホオヅキの冒険者がショコラッテでの拠点とした場所。お菓子の城から片道30分の距離。
アインス	剣王国の隣国。エリスとステビアの出身地。
神秘の国	サンクトラガ。アインスの隣国。住民は褐色肌。獣人たちの根源があるらしい。大きな港がなくホオヅキが直接入港できない。
遊牧地域	世界の西の端。クラオン大砂漠の南。中心にエリの書棚に通じる神域があるらしい。
ヴィステージボルト	北海と南海の狭間にある群島王国。首都リラはホオヅキの次の寄港地？

変装状況まとめ

アリーヤ	フェルバー	自分でサッカバスに偽装。達成値23
エティリス	人間	自分でヴァンピールに変装。達成値27
エルル	サッカバス	ダークプリーストのため変装不要
クロウ	半狼	エティリスがヴァンピールに偽装。達成値29
セフィ	半魔	アリーヤがシャドウに変装。達成値23
(フォルトゥナ)	天使	アリーヤが偽装。何に偽装するかは宣言無し。達成値17。そのまま剣に戻る
ディル	タウルス	エティリスがサッカバスに偽装。達成値25
ハンス	人間	自分でダークエルフに偽装。達成値20
ヘラ	人間犯罪者	エティリスがヴァンピールに偽装。達成値25
ミヤ	???	外見をシャドウに変更。
ユリーカ	半エルフ	エティリスがダークエルフに偽装。達成値29
レイナ	シャドウ	盗賊ギルドに5000セレンで依頼。ファンデーション残り5回分。現在変装解除中
J	エルフ	自分でダークエルフに偽装。達成値不明。

ネームドNPCリスト

ウォーロック	<p>伝説の魔術師。戦いを凍結させるもの。戦いに何らかの不正があるときに現れて戦いを停止（War Lock）させる。時計塔の頂点に君臨するすべてを知る者ホワイト・バロウズと同一人物。彼女の性別を知らない人は案外多かった。今も昔も世界にワーロックは一人だけと剣王国でも伝えられている。天馬騎士団と王国騎士団の戦いに介入し、天馬騎士団の後ろから現れたパティシエルの最高幹部エリス・リトールと会話しているうちに突然首が折れて敗北。圧倒的な思念の暴力により討ち死にした。それはジェイスから見てもあり得ない結果だった。甘味様を召喚するための憑代となるホワイトシンカーの呼び水として死体を利用される。ホワイトシンカーになっても高い戦闘力を持ち、宣言無しでトリプルキャストで必殺技級の大魔法を連打し、自動的な魔力依存と思われる物理攻撃で、合計四回攻撃を仕掛けてくる。ユリーカにより赤い部屋から救出された時に新しい身体を得た。化け物ではないが人間とも言い難い存在、二人目の深淵からの帰還者となった。残された首が折れた古い死体はクエスタが持ち帰った。復活後しばらく昏睡していたが、ウォーロックの後継者にユリーカを指名してユラとともにジェイスを追ってゴブリン帝国へと旅立った。</p>
エリス・リトール	<p>パティシエルの最高幹部。神の造物主となる少女。クックマスター11、セージ5、ネゴシエイター5レベル。正気を失って半身を赤い部屋に飲み込まれていた。甘味様を降臨させた後は廃人になるはずだったが、裸道テルアキの思念の介入により甘味様は裸身様となり、甘味様を生み出すための負担がほとんどかからず無事に済んだ。ゴスロリドレス姿の幼女。ウォーロックに勝利したのは彼女。そのからくりは蓄積した思念エネルギーを使って彼女が『ウォーロックの首が折れると』強く信じたため。思念の暴力。その力に対してはクエスタから借りた眼鏡以外では防御が難しいと思われる。実際に話してみるとお菓子作りが好きな普通の女の子。手は触った感じ低体温体質なのかひんやりしていて、熟練のお菓子職人らしい手になっている。元々剣王国でなくアインズ出身でお菓子職人の家に生まれた。初めてお菓子を作ったのは三歳のとき。最初のお菓子はクッキーだった。アインズでお菓子屋をやっていると甘味様の使い（アインズ）が現れて剣王国に甘味を広めるように勧められた。サッカリンが宣教を始めてから（思念エネルギーの供給を受けて）力が湧いてくるようになりお菓子作りもうまくいくようになった。事件後は正気に戻ってパティシエル神殿に集まった料理人たちにお菓子の作り方を教える忙しい毎日を送っている。</p>
ステビア	<p>パティシエル教団幹部（大神官）。パティシエル神殿の真実を知ってしまい、エリスを助けるために全面的に協力してくれた。たとえ行き先が死刑台であっても、どこまでもエリスについていくつもり。レベル5のメイガス（ノーブル）。エリスのことを好き勝手に利用して使い捨てにしようとしたサッカリンに対しては殺意を抱いている。エリスの幼馴染で剣王国に甘味を広めに行くというエリスのことが心配でついてきた。最初はエリスと二人でお菓子屋をしていた。甘味様に関しては極めて懐疑的。エリスは良い子だが、ヘラに教団についてネガティブなことを言ってしまって自己嫌悪。最後はエリスをキスで説得し、救い出した。事件後にはエリスを支えたいのに何一つ貢献できない自分が許せなくなり故郷のアインズに帰ろうとまで思っていたが冒険者に励まされて、辛抱強く頑張ってみることにした。</p>
サッカリン (ヘロディア)	<p>パティシエル教団幹部。教祖の使いを自称。黒髪で神秘的な国（サンクトラガ）出身を名乗っていて顔にはヴェールをつけてシースルーな占い師風の衣装を着ている。その正体はヘロディアだった。エリスとステビアの二人で活動しているところに加わって教団を一気に大きくした。エリスのことを好き勝手に利用して使い捨てにしようとしているのでステビアからは殺意を抱かれている。甘味様を広めるのは良いことだといつもエリスをそそのかしている。神官を各地に派遣すれば早く甘味様が広がると言ったのも彼女だが、これは神殿からまともな神官を遠ざけることが目的だった。教団の宣教は全て彼女が指導している。アインズが計画した神を捏造するという実験は彼女のお手伝いにより台無しとなってしまった。アインズからは愚かだがアインズを信仰することは悪くないと思われる。事件後は行方不明。</p>

教祖（アインズ）	<p>パティシエルの教祖改め神の造物主。真の名はヨハネらしい。その名前はバイブルにもたびたび現れる。ラスボス候補の大本命。アインズ人だったエリスに1年前に剣王国に行くことを勧めた人。フードを被った金髪のイケメン。自分の意思で破滅に突き進む者にやり直しをさせる。天秤の騎士だった生前とは人格が変わっているように見えるらしい。ゴッドハンドのアインズは準GS17.2話『ガルムを訪ねて三千里』に登場し、ドン・ペリという男に『やり直し』をさせている。辞典の【卓主】ゴッドハンドのアインズに解説有り。準GS17.5話『紅蓮の命運』に登場したヘロディアは彼の信奉者である。この期に及んでもなお、アインズとヘロディアはまだ会ったことが無いようだ。ウォーロック救出後に現れてホオツキの冒険者たちのヘイトを煽って派手に宣戦布告をした。エリもまた彼に心の弱さに付けこまれ、やり直しをさせられたようだ。GS17話で冒険者が見た四つの世界はそのやり直しの履歴なのだろうか？神は存在しないと言い、自分が神になると宣言。</p>
エリ	<p>本棚の主。天使の造物主。GSでたびたび名前が出てくるが、謎の多い人物。彼女の本棚に行くには遊牧地域の中心にある入り口を通る必要があり、そこを通るためにはワーたちに受け入れられる必要がある。ワーたちに受け入れられるためには神秘の国にある獣人たちの根源に触れて獣人たちをよく知る必要があるらしい。彼女に会うには数多くのフラグを立てる必要があるようだ。ホワイトの話によると0と1の配列で構成されるこの世界を作ったのは彼女であり、彼女に話を聞けばこの世界のことが分かるようだ。</p>
甘味（裸身）様	<p>膨大な思念をエリス・リトールに集めてデバイスリフレクターに投射し、それをウォーロックの遺体から作ったホワイトシンカーを依り代にして産み出される神のような何か……になるはずだったが、サッカリンの杜撰な計画により混入してしまった裸人の強すぎる思念のせいで全裸にされてしまった。身体の半分がアストラル体でできていて、対アストラル属性の攻撃、混沌属性、（天使やヒヒイロカネ武器など）対神属性が弱点だった。攻撃では石畳を投げつけてきたり、叫んだり。</p>
ラカント（ラカン）	<p>パティシエルの幹部（枢機卿）。元は剣王国の大盗賊ラカンだったが、奪い戦う日々で満たされていなかった。そこにエリスのお菓子を食べて初めて心が安らかになり、以後菓子職人となることを決意し、僅か1ヶ月でエリスの作れる大体のお菓子を作れるようになった。人を使うのも上手い。決戦時はベル・オブ・パティシエルの効果によりレベル15のシーフとして動ける。ロロカ村の集会で初登場。声は男性だが白粉のメイクで外見は性別不明。登場時はパティシエ姿だった。彼の焼いたアップルパイは絶品だった。戦闘力もかなりのもので大鎌の投擲で裸身様に大ダメージを与えていた。</p>
シュガー	<p>名前を喪った豊饒神の天使。大昔に甘味を貴ぶ豊饒神の信仰があったらしい。豊饒神はパティシエルと言う名前を気に入っているらしく、自身も名前が欲しいと願い、エルルによりシュガーと命名された。彼女もまたエリに作られたらしい。パティシエル神殿に集まった人たちを生温かく見守っている。</p>
ファリス	<p>今回の依頼者。教皇エル・ファリス五世。以前の冒険（準GS17.2話『ガルムを訪ねて三千里』）では、東区の神殿の出張所においてピーフストロガノフを教えてくれ、性病にかかったときも一晩で治療してくれたとても頼りになる人。自分の守護天使のラファエルが手紙を残して自分のものを去ってしまい、心を痛めていたが、事件後に晩さん会で二人きりで良い雰囲気ですることができ、ラファエルとの間の関係を修復することができた。</p>
ラファエル	<p>ファリスの守護天使。天馬騎士団長。すべての人造天使は彼女に逆らうことができない。ファリスに、もう自分に嘘をつくことができなくなったとの手紙を残して、離反。パティシエルに移った。その真意は守りたい人を守るといって自分が鳴りたい姿と、法と秩序を守るといってあるべき姿の差に苦しんでいたことだった。暗黒神殿による洗脳で寝返ったことにすれば他の天使たちの評判は保たれるという計算もあったらしい。決戦で生き残ってからの身の振り方に困っていたが結局ホオツキの冒険者と一緒にアパパカルガに戻り、そこでまるで凱旋したかのように迎えられるという国王からの罰を受けた。その夜の晩さん会でファリスと二人きりで良い雰囲気です話して、関係を修復した。</p>
エゼキエル	<p>天馬騎士団の副長。ラファエルよりも柔軟な考え方をしようだが、彼女もまた法と秩序を守るといってあり方と大切な人を守りたいという意思の間で苦しんでいるようだ。</p>
ミカエル	<p>天馬騎士団の一人。一言だけ台詞があった。</p>

J (ジェイス)	シーフギルドから紹介された案内人。バロッカで合流。少し場をはずしているうちに、気が付いたらモンスターをやっつけていた……と、思われる。正体を偽っていたわけではないが当初はJと名乗っていた。しかし時短のためにテレサにあっさり正体を暴露された。シンカーからの魂の救出という難事業を成し遂げた唯一の男。一行がショコラッテからアパカルガに戻る頃には姿を消していた。どうやら魔鉱石の鉱脈を求めてゴブリン帝国へと向かったらしい。
リオネル	Jのファミリア。レベル5のメイガス（ノーブル）でプリースト（神道）。猫の姿と幼女の姿になる。巫女装束を着ている。Jの前の主人の趣味らしい。決戦で戦闘を手伝ってくれた。
フラクナ十四世	グリム・フォン・フラクナ十四世。剣王国の国王。50歳を超えたそろそろ老衰に入る老人。ゼラーダの睡眠時間を気にしている。教皇を呼び出しては話し相手になってもらっているようだ。政治家としての顔でラファエルを罰し、国王としての顔でラファエルを褒めて労った。
ガルガノス	フルネームはガルガノス・レア・ブリエーゼ・ラ・サルバロイ・ブリアーズラ・グラン・ハーラム。国王の甥でもある。代々公爵位をもらっている王家に連なる数少ない血統で自身は王城の一切を取り仕切っている。（宮宰のような立場と思われる）非常に身なりが良い。ゼラーダによると秩序を愛し信仰も篤い立派な人物。アイナ曰く『王宮の良心』。以前の武器密輸騒動（準GS17.1話『武器横流し』または盗賊ギルドで話題になった一ヶ月前の武器密売騒動のどちらかと思われる）も彼を暗殺することが狙いだったようだ。バラク騎士団長と仲がまいち良くない。
ゼラーダ	双子神殿の枢機卿。高価な服を着た眼鏡に禿げ頭の老年の男性。双子神殿本殿を任されている。アイナ曰く『非の打ちどころのない人』。
バラク	バラク・バルバロス。剣王国の王国騎士団長。アイナ曰く『ぶっきらぼうで、無骨で、乱暴者だけど、国にとって何が一番良い事か、自分なりに考えている人。人格的にはどうかと思うところはある』。たまに娼館にも来るらしい。レベル10で戦闘スキルはファイターのみ。しかも一次職のみを極限まで磨き上げていた。ショコラッテに冒険者が自分たちを差し置いて向かうことに納得ができない剣王国の騎士たちを代表して国王に直訴して冒険者たちの実力を測った。彼は騎士ではあるが、二次職ナイトではない。両手剣レイザーエッジのみで武装。彼の武具には剣王国にいるときだけ、特殊な条件の戦士を補助するバフがかかっている。剣王国の戦士や魔術師は多かれ少なかれ同様の恩恵を受けているようだ。ガルガノス公爵と仲がまいち良くない。王都に帰還した天馬騎士団にも憎まれ口を叩いたが、王の言葉を伝えるという任務はまっとうに果たした。いつも憎まれ役らしい。
アイナ	剣王国で随一の娼婦。アパカルガ北区の高級娼館ラヴィアンローズにいる。主に女性相手でふたなりさん。以前の冒険（準GS17.2話『ガムを訪ねて三千里』）でエティリスとベッドで対決して敗北した。しきりにパティシエルの集会に誘われたらしいが、スイーツは一人で楽しむ主義なので参加しなかった。
ゼニール	双子神殿の聖騎士。40歳のおじさん。以前の冒険（準GS17.1話『武器横流し』）では市内の警邏をしたり、妖魔の巣窟となっていた高級娼館ローラの店の制圧にも出動していた。アイナ曰く『砂糖程度なら見逃してくれる』
ジョニー	腕利き傭兵団を率いるフィガロ兄弟の片割れ。デュラハンにも圧勝し、妖魔やアンデッドを歯牙にもかけない強さ。
スティーブ	腕利き傭兵団を率いるフィガロ兄弟の片割れ。デュラハンにも圧勝し、妖魔やアンデッドを歯牙にもかけない強さ。
トマス	ロロカ村で一行を泊めてくれた羊飼いの夫婦。夫にして弟。美形。アルマーサ信者で近親婚をしている。まだパティシエルの誘惑には抵抗している。
ミーシャ	ロロカ村で一行を泊めてくれた羊飼いの夫婦。妻にして姉。美形。アルマーサ信者で近親婚をしている。まだパティシエルの誘惑には抵抗している。

クエスタ	海洋帝国ティガールの宮廷魔術団副長クエスタ・セッティマンナ。宝石魔術の使い手。時計塔の使者として色の魔術師にウォーロックを倒した者への復讐命令の伝達とその復讐の見届けをするために現れ、色の魔術師であるユリーカに復讐の杖を託した。彼は色を持っていないため復讐者たりえない。ユリーカにはお目付け役の蝙蝠をつけている。高級真珠20珠を対価に決戦で心という名の弓を放つようにエティリスから個人的な依頼を受け、遂行した。（報酬の支払いはちゃんと行われた）ユリーカがホワイトをシンカーの中から救出した時点で彼の見届け人としての任務は完了した。中立の立場は彼としてはしんどかったようだ。調査のために首の折れたホワイトの死体を持ち帰った。
巨頭婆	謎の種族、巨頭オの婆さん。ショコラッテの街のテント小屋で皮なめし業を営んでいるようだ。買ったものは3倍以上の根がつかないと売らない主義らしい。裸人に営業妨害されていた。
裸道	裸道テルアキ。ショコラッテの街で自分の美しい乳首を革製品として永遠に残したいと巨頭婆と交渉をしていた。色々邪魔だったのでセフィたちに石像にされ、天に召されたはずだった。しかし、周囲の霊体を無差別に吸収するお菓子の城の仕様のせいで甘味を崇める思念に混入した、強すぎる思念は生まれようとしていた甘味様に強い影響を与え、裸身様へと変貌させてしまった。
テレサ	原罪の探求者テレサ・ティガール。ギャグとシリアスの振れ幅が激しい。GSのレギュラーでいつも舞台のどこかにいるらしい。（会えるとは限らない）今回はお菓子の城の近くの街の中央広場で行き倒れているところをダークエルフに400セレンで売り飛ばされ、皮なめし小屋で働かされていた。身請けに1200セレンを支払った。特異点と願望器について詳しいことを解説する役回りだった。17.2話の登場時は、アインズと数日にわたって神の不在証明について議論していたことが分かった。
ユラ	深淵からの帰還者。ユラ・シグマ。ジェイスに赤い部屋から救い出されたいらしいが本人はよく覚えていないらしい。ホワイトと共にゴブリン帝国へと向かったらしい。
エリザベート	本国（ティガール）に帰国中。帰国している間にクエスタの長期休暇の決済をしたらしい。さりげなく戻ってきた。
アレキサンダー	ホオヅキにいるが魔法王国マレーンの人なので剣王国の事情は知らない
サロメ	剣王国ゆかりの人だが、現在ホオヅキには乗っていない
リリーナ	剣王国で天使に関する騒ぎがあるのを知っている程度
その他ホオヅキ師匠	ホオヅキにはいるが、剣王国事情はよく知らない

取得アイテムリスト

王印	国王に返却済 。特別に任務を与えられた者が身に着けられる、王様の印鑑によって焼き印がしてあるプレート。首から下げることによって、王国騎士に協力を得たり、立ち入り禁止の場所に入ったりできるようになる。
地図	ラファエルに返却済 。ハンスとミヤが写真記憶。剣王国国内の地図。原始的であり精度は高くないが大体の位置関係を把握するには十分。
紹介状	Jが受け取った 。アパパカルガのシーフギルドからフォルトゥナが受け取った。J宛て。
パティシエルの聖印（ラカント）	エティリス、エルル、ヘラ、ミヤが所持。入手にはクックマスターとプリーストのスキルが必要。パティシエルの幹部候補生となり本部で入信できる。
復讐の杖	クエスタに返却済 。ウォーロックが不正な手段、及び不慮の事態で討ち死にした場合、時計塔の威信にかけて仇討つことを定められた杖。盟約の元に強大な復讐のための魔術が刻まれている。杖に刻まれた術式は2937項目に及び、復讐を代行した魔術師に大きな力を与える。魔力+4、術式理解+3、すべての術のTPの消費を-1する（0にはならない）。ターンごとにTPが4回復。一度装備すると、盟約を果たすまでは装備解除できない。特殊効果：上位魔術、特殊魔術の全系統の全ての術が使用できるようになる。
幻想殺し	クエスタに返却済 。あらゆる幻想を無効化し、可視化されている眼鏡。とある魔術師の一門によって厳重に管理されている。装備していると幻影、幻想の類が全て無効化され、真実の姿を見ることができる。また、装備中はあらゆる思念の投射、また思念の反映を遮断する。
ベル・オブ・パティシエル	ステビアが所持 。 ステビアとエリスしか使うことができない 。古代暗黒文字によってさまざまな祝福の祝詞が刻まれたベル。その祝詞は使用者に祝福を与えるものであり、このベルを鳴らす時、選ばれた清廉なるパティシエルの使徒が招聘される。パティシエルの使徒達は一か所に召集され、その指導者の呼びかけに応答するとき、すべての技能のレベルが3上昇する。呼びかけの動機は清廉なる甘味の維持のためでなければならず、呼ばれる使徒は清廉に甘味を愛するものでなければならない。
ラカントのアップルパイ	セフィとディルがもらった。極上のおいしさをもつアップルパイ。食べるとTPが5点回復する。その場で食べる分ともう一つ、お持ち帰りパックのお土産つき。（3年保存可能）
飴細工の手鏡	ディルが持ち帰った。銀色の飴を磨き上げて鏡にしているもの。食べられるが普通に鏡としても使える。一応マジックアイテムなのか、放っておいても劣化しない。お菓子の城からいくら持ち出しても減らないらしい。

必要経費まとめ（なお、個人的な出費は対象外です）

盗賊ギルド情報料（ガラム一家・ヘロディア・南西部ガイド・天使騎士団・ショコラッテ）	6800
バロック行き乗合馬車チャーター料（用心棒付き）三台分	7500
バロックの猫の字亭のご旅行セット（計算が楽になるのでフォルトゥナ分も計上）	180
Jの桃蜜酒	20
テレサの身請け	1200
エリス戦でのテオクリスタル	40000
ホワイトシンカー戦でのテオクリスタル	80000
合計	135700

鉄壁防御などまとめ (必殺技やアビリティは入れていません)

全員	致死攻撃を1回だけ無効化、一度だけ出目1,1を6,6に変換する、プロテクションフロムアイギス (スロット不要) ただし、本シナリオのみ。
アリーヤ	
エティリス	パーミッション、プロテクションフロムアイギス、終局・月無逢魔ヶ原
エルル	タイムブック
クロウ	
セフィ	パワーシンク (弱)
(フォルトゥナ)	リムーブオール、潜入術・極意
ディル	ピンポイントバリア、ホワイトダンス、超受け身
ハンス	綺麗な綺麗なガラス玉、ディメンションスリップ
ヘラ	
ミヤ	
ユリーカ	デッチ・マナ パーミッション プロテクションフロムアイギス リムーブオール
レイナ	

天使について

準GS16.5話（？）『二月の丘』でホオヅキの冒険者たちは二月の丘の愛と芸術の神スクルドの神殿でアンジェラという天使と遭遇した。

（ユリーカとミヤとアハトはその場にいたはず）

アンジェラはエリという名前は聞いたことがないがその名前を聞くと懐かしいと語っている。

その場にいた妖精（精霊）たちは（エリは）神の名前だと言っていた。他には大地の母なる神ヘラメルという神もいるらしい。

ともかく、その時はアンジェラから妖精についての話を聞いた。

500年前に世界が滅びた話を聞こうとしたがアンジェラはそれについて語ることを許されていないらしい。

アンジェラ『私達天使は、どうやら世界ではなく、「この星の側」の存在らしい』

アンジェラは誰かをお願いされたのか、スクルドの神殿を守るようにという使命のようなものは感じていたが、スクルドという神については何も知らなかった。

アンジェラがスクルドの神殿に遭わされたのは50年ほど前だった。遭わされる前のことはよく覚えていないようだ。どこか本棚の沢山ある場所で生まれたことはうすぼんやりと覚えているらしい。白い本と黒い本とモノトーンで……とその先を思い出そうとすると、アンジェラの存在自体の危機になるらしく、そこで思い出すのは中断された。

アンジェラ『誰も覚えていない神を再発見できる人間が居るとでも思うのかね？ 宗教とは、神とはそういうものだ。誰もそれを思いださなくなった時点で、信仰者が居なくなった時点でその神は…少なくともその宗教は終わりを告げるのさ。もし、誰も覚えていない中で自らを神だと名乗ることができるとすれば、それこそまさに、本当の神なのだと思うよ』

スクルドの神殿の石板に『今は過ぎ去った愛と芸術の君へ、エリの本棚より愛をこめて』と彫ってあった。アンジェラはその石板を解読することができなかったが、ホオヅキの冒険者から石板の内容を教えてもらおうと、自分の存在とその使命の意義を思い出した。

アンジェラに『いまだ知られざる神の神殿』の場所を教えてもらったホオヅキの冒険者たちは妖精たちの遊び場になっているその神殿で、行き倒れたテレサを発見した。テレサにエリという名前について尋ねた一行。

テレサ『知っている。この世界の創造者。白い本棚の主。黒い本の上に座る人。我々はエリの本棚の一冊の本に過ぎない』

エリの本棚とはどこにあるかと聞かれたテレサ。

テレサ『……赤い部屋の近くにも思えるし、遠くとも思えるし。多分この世界の座標的などこでもない。強いていうなら…多分この地面のずっと下』

神殿の小さな石板には『この神殿を訪れてくれた方へ。私は神ではありません。私に祈るのはやめてください。 エリの本棚より愛をこめて』とも彫ってあった。

テレサ『……この世界は全てデバイスリフレクターの産物に過ぎず。それは人の想いの反射に過ぎず。そしてこの星は最初に人の心そのものを贄に必要とした。神と呼ばれるものも、異種族も大事も魔術も神聖祈祷ですらも…エリはただの人間。あれは神じゃない。でも、この世界はエリの創造の産物であることは確か。そこから先は…私には良く判らない。ひょっとするとエリにも解っていないのではないだろうか…世界は贄を必要とするこの星と戦って、そして負けました。次はどうでしょうか』

テレサ『私は口伝いに聞いただけで見た訳ではないから。しかし、エリがそういうので、私は原罪というものを探している。どれだけ歩いても分からないけれど、でも多分そのうち判る。ここに来ればあるとおもったけど、ここにもなかった。次はどこに行こうか』

テレサ『世界はあなた達（ホオヅキの冒険者）のことうです。（この星とは？）それは貴方達がこれから戦うものです』

テレサがそう言ってさらなる巡礼の旅へと出た後に神殿を探索すると『物質への魔術の封じ込め原書』という本が見つかった。

本に挟まっていたメモには『私はこの世界で初めて神と呼ばれるものを知りました。最早私に魔術は必要ありません。私の知識をここに記してここへ置いていきます。 G・ガーランド』と、書かれていた。

付与魔術師ガーランド：魔法剣の開祖とも言われている伝説の魔導士。古代魔法帝国で物質を媒介に魔術を発現させる研究を行っていたが、ある時突然姿を消して行方不明になったと言われている。彼が行方不明になったせいで、古代に魔法剣というジャンルは生まれなかった。**現代の魔法剣は、ガーランドが残したメモなどの遺失物から地道に解析されたものである。**

この本が時計塔にもたらされたことにより、ルーンソードは特化魔術から上級魔術へと移り天使の創造が可能となった。